Nikon

ニコンデジタルカメラ

COOLPIX P50

クールピクス P50

使用説明書

Jp

商標説明

- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTimeは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDロゴおよびPictBridgeロゴは商標です。
- ImageLinkおよびImageLink print systemのロゴは米国Eastman Kodak Companyの登録商標です。
- D-ライティングはapicalアピカル社の技術によるものです。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は次のようになっています。

⚠危険	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠警告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
警告	**指定の電池または専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠注意（カメラについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、電源をOFFにしてレンズを遮光し、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
使用注意	**飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。 病院で使う際も、病院の指示に従ってください。
電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと** 電池の液漏れにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因となることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（リチウム電池、アルカリ電池、オキシライド乾電池について）

危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（リチウム電池、アルカリ電池、オキシライド乾電池について）

警告	**外装チューブをはがしたり、傷を付けないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池に表示された警告、注意を守ること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**使用説明書に表示された電池を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときはただちに医師にご相談ください。
警告	**電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
禁止	**充電池以外は充電しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則にしたがって廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗い流すこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠警告
（アルカリ電池、オキシライド乾電池について）

警告	**使い切った電池はすぐにカメラから取り出すこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠危険
（ニッケル水素充電池について）

使用禁止	**リチャージャブルバッテリーEN-MH1は、COOLPIX用Ni-MH電池2本を使用するニコンデジタルカメラ専用の充電池です** **この機器以外には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用のチャージャーを使用して2本セットで同時に充電すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（ニッケル水素充電池について）

危険	**外装チューブを外したり、傷をつけないこと** **また、外装チューブがはがれたり、傷がついている電池は絶対に使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池に表示された警告、注意を守ること** 液もれ、破裂、発火の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則にしたがって廃棄してください。
警告	**使用説明書に表示された電池を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠注意
（ニッケル水素充電池について）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P50をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

マーク	説明
✔	カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
💡	カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。
📎	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
👁	関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SDメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録が行えます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードすることができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/

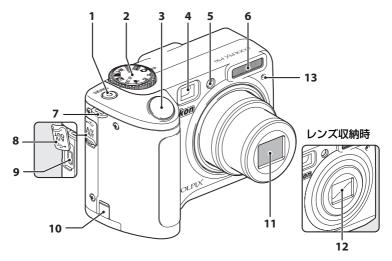
ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（🔀105）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

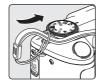
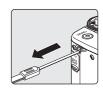
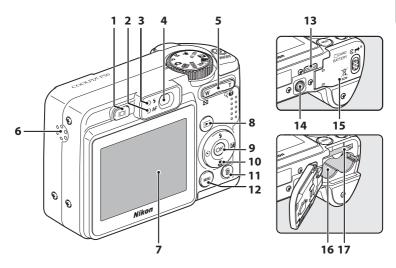
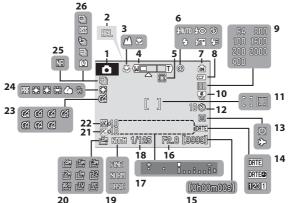
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

各部の名称

カメラ本体

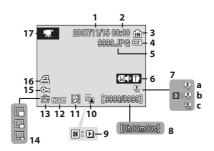
レンズ収納時

No.	名称	ページ
1	電源スイッチ/電源ランプ	12、113
2	モードダイヤル	8
3	シャッターボタン	22
4	ファインダー	20
5	セルフタイマーランプ AF補助光	28、124 23、111、124
6	内蔵フラッシュ	26
7	ストラップ取り付け部	
8	端子カバー	66、68、72
9	ケーブル接続端子	66、68、72
10	パワーコネクターカバー	118
11	レンズ	122、135
12	レンズバリアー	
13	マイク	54、56、62

ストラップの取り付け方

1	▯（モニター）ボタン	11
2	AFランプ	22
3	フラッシュランプ	27
4	ファインダー	20
5	ズームボタン **W**： 広角ズーム **T**： 望遠ズーム ▦： サムネイル表示 🔍： 拡大 ❓： ヘルプ	21 21 21 45 46 10
6	スピーカー	54、61、64
7	液晶モニター	6、11、19
8	▶（再生）ボタン	24

9	OK（決定）ボタン	9
10	マルチセレクター	9
11	🗑（削除）ボタン	24、25、55、61、64
12	MENU（メニュー）ボタン	10、57、81、98
13	ImageLink端子	79
14	三脚ネジ穴	
15	電池/SDカードカバー	12、16
16	電池室	12
17	SDカードスロット	16

液晶モニターの表示内容

説明のため、すべての表示を点灯させています。

撮影時

1	撮影モード※ ....18、31、40、41、42、56
2	AE-L表示 39
3	フォーカスモード 29
4	ズーム表示 21
5	電子ズーム状態表示 21
6	フラッシュモード 26
7	内蔵メモリー表示 19
8	バッテリーチェック 18
9	ISO感度表示 .... 27、88
10	電子式手ブレ補正表示 ....19、58、111
11	AFエリア .... 22、93 AFエリア（顔認識時）................ 93
12	セルフタイマー 28
13	時計マーク ....126 ワールドタイム 106
14	デート写し込み 109
15	記録可能コマ数（静止画）.........18 記録可能時間（動画）..................56
16	絞り値 44
17	露出インジケーター 42
18	シャッタースピード 44
19	画質 81
20	画像サイズ 82
21	露出補正値 30
22	調光補正 96
23	仕上がり設定 84
24	ホワイトバランス 86
25	ノイズ低減 96
26	連写モード 90

※ 撮影モードによって表示されるアイコンが異なります。

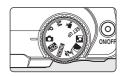
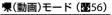
再生時

1	撮影日 14
2	撮影時刻 14
3	内蔵メモリー表示 24
4	バッテリーチェック 18
5	ファイル名 120
6	音量表示 .... 54、61
7	a 手ブレ補正済表示 b 手ブレ補正ガイド c 手ブレ補正不可表示 .....50、111
8	画像の番号/全画像数 .... 24 動画の再生時間 61
9	動画再生ガイド 61
10	D-ライティング済み表示 49
11	音声メモ表示 54
12	画質 81
13	画像サイズ 82
14	スモールピクチャー 52
15	プロテクト表示 101
16	プリント指定表示 77
17	動画モード※ 61

※　撮影時の動画設定によって、表示されるアイコンが異なります。

主なボタン操作とヘルプの使い方

モードダイヤル

モードダイヤルを回して、使用するモードのアイコン（図記号）を指標に合わせます。

露出モードP、M
（41、42）

P（プログラムオート）または**M**（マニュアル露出）にすると、撮影メニューでホワイトバランス、ISO感度、連写などを設定して撮影できます。

（オート撮影）モード
（18）

細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

高感度モード（40）

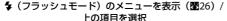
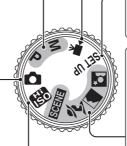
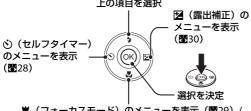
高感度で撮影することで、薄暗いシーンでも手ブレや被写体ブレの影響を軽減し、その場の雰囲気を活かした撮影ができます。

（動画）モード（56）

動画を撮影できます。

SET UP（セットアップ）モード（103）

セットアップメニューを表示します。日時や画面の明るさなどを設定します。

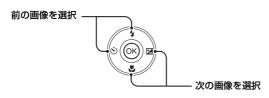
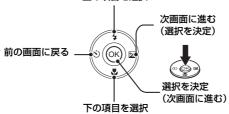
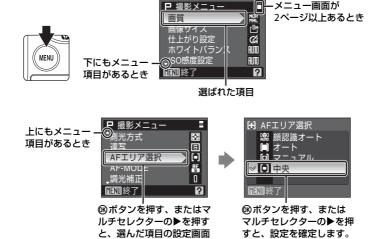
（ポートレート）モード、
（風景）モード、
（夜景ポートレート）モード
SCENE（シーン）モード
（31）

撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った撮影ができます。音声のみを録音する音声レコード機能も選べます。

マルチセレクター

モードやメニューを選んで決定するときは、マルチセレクターを使います。

撮影時に使う

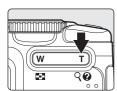
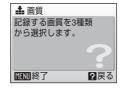
再生時に使う

メニュー画面で使う

マルチセレクターの使い方の記載について

マルチセレクターは複数の操作が可能なため、各操作説明では具体的に記載していません。操作手順で注意が必要な場合は、上、下、左、右の各操作部を▲、▼、◀、▶と表記しています。

はじめに

MENU（メニュー）ボタン

MENUボタンを押すと、選んでいるモードに応じたメニューを表示します。各メニュー項目を設定するには、マルチセレクターを使います（9）。

ヘルプの表示方法

メニュー画面の下に?が表示されているときに**T**（?）ボタンを押すと、選んでいる項目の説明（ヘルプ）を表示できます。
メニュー画面に戻るには、もう一度**T**（?）ボタンを押します。

□（モニター）ボタン

□（モニター）ボタンを押すたびに、撮影時や再生時に液晶モニターに表示する情報の切り換えができます。

撮影時

情報ON
撮影画像と撮影情報を表示します。

ガイド表示
（モードダイヤルが🅗ISO、**P**、**M**のときのみ可能）構図を決めるための格子状のガイドを表示します。

情報OFF
撮影画像だけを表示します。

液晶モニター OFF※1
（モードダイヤルが**P**、**M**のときのみ可能）
液晶モニターを消灯します。

再生時

画像情報ON
再生画像と画像情報を表示します。

撮影情報ON
（動画は除く）
ヒストグラム※2と撮影情報※3を表示します。

情報OFF
再生画像だけを表示します。

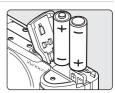
※1 ピントが合わず、AFランプが点灯しないときはシャッターがきれません。また、［AFエリア選択］（🔍93）が［顔認識オート］または［オート］のときに液晶モニターをOFFにすると、［AFエリア選択］は［中央］になります。
※2 ヒストグラムとは、明るさの分布を表す山状のグラフのことです。横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。
※3 ここで表示される撮影情報は、フォルダ名、ファイル名、露出モード**P**、**M**、シャッタースピード、絞り値、露出補正値、ISO感度です。露出モードは、📷、🅗ISO、SCENE、**P**のときには**P**と表示されます。

電池を入れる

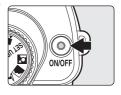
1 電池/SDカードカバーを開ける

- 電池/SDカードカバーを開けるときは、電池が落下しないよう、カメラの底面を上に向けてください。

2 電池を入れる

- 右図のように正しい向きで入れてください。

3 電池/SDカードカバーを閉じる

使用できる電池について

このカメラでお使いいただける電池は、以下のとおりです。

- アルカリ単3形電池（LR6）（付属の電池）×2本
- オキシライド単3形乾電池（ZR6）×2本
- リチウム単3形電池（FR6）×2本
- ニコン製Ni-MHリチャージャブルバッテリー EN-MH1（ニッケル水素単3形充電池）×2本

電源をON/OFFするには

電源スイッチを押すと、電源がONになり電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。
もう一度電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。
電源がOFFになると、電源ランプと液晶モニターの両方が消灯します。
電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（🔍24）。

電池を取り出すときは

電源をOFFにし、電源ランプと液晶モニターが消灯していることを確認してから、電池/SDカードカバーを開けてください。

電池についてのご注意

- 必ず「安全上のご注意」の「危険」、「警告」、「注意」（iv～vi）の注意事項をお守りください。
- 「取り扱い上のご注意　電池について」（124）を良くお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- 新しい電池と使いかけの電池を混ぜたり、種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使わないでください。
- 以下のような電池は使用しないでください。

外装シールの一部または すべてがはがれている電池

マイナス電極の一部が突き出ていて、外装シールが側面にしかない電池

マイナス電極が平らな電池

［重要］電池設定について

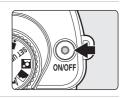
このカメラは、使用電池の種類を設定することで、電池を効率よく使うことができます。初期設定は［アルカリ電池］です。アルカリ電池以外の電池をお使いになるときには、電源をONにしてから電池設定を変更してください（117）。

アルカリ電池の性能について

アルカリ電池はメーカーにより性能が大きく異なることがありますので、信頼できるメーカーの電池をお使いください。

AC電源について

別売のACアダプター EH-65Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P50へ電源を供給できます。EH-65A以外のACアダプターは**絶対に使用しないでください**。カメラの故障、発熱の原因となります。

撮影時の節電機能について

カメラを操作しない状態が約5秒続くと、電池の消耗を抑えるため、液晶モニターの表示が暗くなります。カメラを操作すると、元の明るさに戻ります。また、カメラを操作しない状態が約30秒（初期設定）続くと、液晶モニターが自動的に消灯します。そのまま約3分経過すると、電源が自動的にOFFになります（113）。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- 電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。

2 マルチセレクターで表示言語を選び、Ⓚ ボタンを押す

- マルチセレクターの使い方→9

3 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 日時設定を中止するときは［いいえ］を選びます。

4 Ⓚボタンを押す

夏時間を設定する

夏時間（サマータイム）が現在実施されているときは、［ワールドタイム］画面で［夏時間］のチェックボックスをオン（✔）にしてから、現在の日時を設定します。

1 Ⓚボタンを押す前に、▼を押して［夏時間］を選ぶ
2 Ⓚボタンを押して、チェックボックスをオン［✔］にする
　もう一度Ⓚボタンを押すとチェックボックスをオフにできます。
3 ▲を押してからⓀボタンを押し、手順5に進む

夏時間の期間が終了したときは、［日時設定］（106）で［夏時間］のチェックボックスをオフにしてください。カメラの時刻が1時間戻ります。

5 自宅のあるタイムゾーン（都市名）（108）を選び、OKボタンを押す

6 日時を合わせる

- マルチセレクターの ▲▼ を押してカーソルのある項目を合わせます。
- ▶を押すと、カーソルは年→月→日→時→分→年月日（日付の表示順）に移動します。
  ◀を押すと、カーソルは前の項目に移動します。

7 ［年月日］の表示順を選び、OKボタンまたは▶を押して決定する

- 設定が有効になり、撮影画面が表示されます。

設定した日時を変更する

すでに設定した日時を変更するときは、セットアップメニュー（103）の［日時設定］（106）で［日時］を選び、手順6から設定してください。

SDカードを入れる

撮影または録音したデータを、カメラの内蔵メモリー（約52 MB）、または市販のSDカード（119）のどちらかに記録されます。

カメラにSDカードを入れると、SDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出してください。

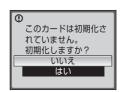
1 電源のOFFを確認してから、電池/SDカードカバーを開ける

- SDカードを抜き挿しするときは、必ず電源をOFFにしてください。
- 電池/SDカードカバーを開けるときは、電池が落下しないよう、カメラの底面を上に向けてください。

2 SDカードを入れる

- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 挿入後、電池/SDカードカバーを閉めてください。

逆挿入注意

SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

SDカードを取り出すときは

電源をOFFにし、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、電池/SDカードカバーを開けてください。カードを指で軽く奥に押し込んで離すと①、カードが押し出されるので②、まっすぐ引き抜いてください。

SDカードの初期化

電源をONにしたときに右のように表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化（113）すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
マルチセレクターで［はい］を選び、OKボタンを押すと確認画面が表示されます。［初期化する］を選び、OKボタンを押すと初期化が始まります。

- **初期化中は、電源をOFFにしたり、電池/SDカードカバーを開けたりしないでください。**
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化（113）してからお使いください。

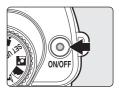
SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

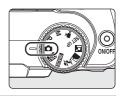
書き込み禁止スイッチ

▼Lock

SDカードの取り扱い上のご注意

- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - 電池を取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

ステップ1　電源をONにして（オート撮影）を選ぶ

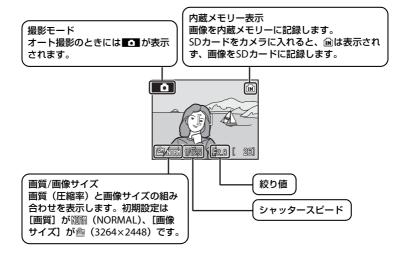
（オート撮影）モードでは、細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

1 モードダイヤルをに合わせる

2 電源スイッチを押して電源をONにする

- 電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。

3 液晶モニターで電池残量と記録可能コマ数を確認する

電池残量

モニター表示	内容
表示なし	電池残量は充分にあります。
	電池残量が少なくなりました。 電池交換の準備をしてください。
電池残量がありません	撮影できません。電池を交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。

記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量、画質、画像サイズによって異なります（83）。

（オート撮影）モードでの液晶モニター表示

電子式手ブレ補正について

セットアップメニューの［電子式手ブレ補正］（111）が［AUTO］（初期設定）の場合、フラッシュモード（26）を（発光禁止）または（スローシンクロ）にしたときなどに液晶モニターにが表示されることがあります。が表示されたときは、手ブレしやすい撮影状況になると手ブレの影響を軽減して画像を記録します。

（オート撮影）モードで使用可能な機能について

（オート撮影）モードではフラッシュモード（26）の変更、セルフタイマー（28）、フォーカスモード（29）、および露出補正（30）の設定ができます。また、（オート撮影）モードのときにMENUボタンを押すと、撮影メニューの［画質］（81）と［画像サイズ］（82）を設定できます。

シャッタースピードと絞り値

カメラが撮影状況に応じて設定したシャッタースピードと絞り値が表示されます。
露出モード**M**（マニュアル露出）（42）にすると、シャッタースピードと絞り値を自分で設定できます。

ステップ2　カメラを構え、構図を決める

1　カメラをしっかりと構える

- カメラを両手でしっかりと持ってください。レンズやフラッシュ、AF 補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

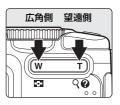
- 縦位置で撮影するときは、フラッシュ発光部を上にしてください。

2　構図を決める

- 写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。

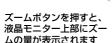
ファインダーを使う

日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、ファインダーを使って撮影してください。

ファインダーについてのご注意

次のような場合は、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲が異なりますので、液晶モニターで構図を確認してください。

- カメラと被写体の距離が近い場合（特に約1 m以内）
- 電子ズームを使用する場合（21、112）
- ［画像サイズ］が［3264×2176］、［3200×1800］の場合

ズームを使う

ズームボタンを押すと、光学ズームが作動します。
被写体を大きく写したいときは**T**（Q）ボタンを押してください。
広い範囲を写したいときは**W**（▣）ボタンを押してください。

光学ズームを最も望遠側にして、さらに**T**（Q）ボタンを押し続けると、電子ズームが作動し、光学ズームの最大倍率（約3.6倍）の約4倍（総合倍率：約14.4倍）まで拡大できます。
電子ズーム使用時は、画面中央でピント合わせを行います。
ズームの量は液晶モニター上部で確認できます。

ズームボタンを押すと、液晶モニター上部にズームの量が表示されます

光学ズームの最大倍率

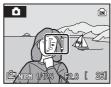
電子ズームが作動すると、表示が黄色に変わります

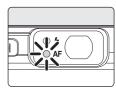
✔ 電子ズームと画質について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため画質の劣化が生じます。ただし、画像サイズ（▣82）が小さいときは、次の表の倍率まで、電子ズームによる画質の劣化はありません。劣化しない最大倍率まで到達すると、ズーム動作が一時的に止まり、さらに**T**（Q）ボタンを押し続けて倍率を上げると画質の劣化が始まります。画質が劣化するズーム位置では、液晶モニターに▣が表示されます。

劣化しない最大ズーム倍率

画像サイズ	倍率
8M、3:2、16:9	3.6倍（光学ズーム最大倍率まで）
5M	4.3倍（電子ズーム1.2倍）
3M	5.0倍（電子ズーム1.4倍）

画像サイズ	倍率
2M	7.2倍（電子ズーム2.0倍）
1M	8.6倍（電子ズーム2.4倍）
PC	10.8倍（電子ズーム3.0倍）
TV	14.4倍（電子ズーム4.0倍）

電子ズームの倍率を画像が劣化しない範囲内に制限したり、電子ズームが作動しない設定にできます（▣112）。

簡単な撮影と再生―オート撮影モードを使う

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1　シャッターボタンを半押しする

- 画面中央の AF エリアに重なっている被写体にピントが合います。
- ピントが合うと、AFエリア表示が緑色に点灯し、ファインダー左横のAFランプも点灯します。
- AF エリアが赤色点滅したり、AF ランプが高速点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変え、もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- 電子ズーム使用時は AF エリアは表示されず、画面中央の被写体にピントが合います。

2　シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出が合い、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。
シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

半押しすると、ピントと露出が固定　　そのまま深く押し込んで撮影

画像の記録についてのご注意

液晶モニターにが表示されているときや、または（SDカード使用時）が点滅しているとき、AFランプが点滅しているときは、画像の記録中です。電池/SDカードカバーを開けないでください。画像の記録中にSDカードや電池を取り出すと、画像が記録されなかったり、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアとAFランプが緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、同距離にある別の被写体にピントを合わせてフォーカスロック撮影をお試しください。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

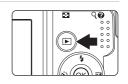
ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける

半押しする

AF 表示が緑色に点灯したら

半押ししたまま構図を変える

そのまま深く押し込む

AF補助光とフラッシュについて

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押しするとAF補助光が点灯することや、シャッターボタンを全押ししたときにフラッシュが発光することがあります。AF補助光が届く距離は、広角側で約1.9 m、望遠側で約1.1 mです。AF補助光を点灯しない設定にできますが、ピントが合いにくくなることがあります（111）。

ステップ4　撮影した画像を確認する/削除する

画像を確認する（再生モード）

▶ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- マルチセレクターの▲▼◀▶で前後の画像を表示できます。ボタンを押し続けると、画像を早送りできます。
- 前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、もう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INが表示されず、SDカードの画像が再生されます。

内蔵メモリー表示

画像を削除する

1 削除したい画像を表示して🗑ボタンを押す

2 マルチセレクターで［はい］を選び、OKボタンを押す

- 削除をやめるときは、［いいえ］を選んでOKボタンを押します。

簡単な撮影と再生―オートモードを使う

再生モードで使える機能

再生モードの1コマ表示中は、次の機能が使えます。

機能	ボタン	内容	
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	46
サムネイル表示する	W（▦）	4コマ、9コマ、または16コマのサムネイル画像を表示します。	45
情報を表示/非表示にする	|□|	液晶モニターに表示される画像情報、撮影情報の表示/非表示を切り換えます。	11
手ブレを補正する	OK	静止画を表示しているときにOKボタンを押すと、手ブレを補正します。	50
撮影モードに切り換える	▶ / シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	24

▶ボタンによる電源ON

電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。このとき、レンズは繰り出しません。

画像の再生について

内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SDカードをカメラから取り出してください。

撮影時に画像を削除する

撮影時に🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像を削除できます。

簡単な撮影と再生—オート撮影モードを使う

フラッシュを使う

フラッシュの発光モードを撮影状況に合わせて設定できます。フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約0.5～5.9 m、望遠側で約0.5～2.8 mです（ISO感度設定がオート時）。

AUTO	**自動発光**
	暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減自動発光
	人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます（27）。
	発光禁止
	フラッシュは発光しません。
	強制発光
	被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。
	スローシンクロ
	自動発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景をきれいに写します。
	リアシンクロ
	シャッターが閉じる直前にフラッシュを発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したいときなどに適しています。

フラッシュモードの設定方法

1 （フラッシュモード）を押す

- 液晶モニターにフラッシュモードの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターでモードを選び、OK ボタンを押す

- 設定したフラッシュモードが表示されます。
- AUTO（自動発光）にすると、AUTOが5秒間表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

⊛（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。
- 液晶モニターにISOと表示されることがあります。ISOと表示されたときは、ISO感度が上がっているため、通常よりもざらついた画像になることがあります。

フラッシュ使用時のご注意

フラッシュを使用して撮影すると、フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込んでしまうことがあります。このようなときは、フラッシュモードを⊛（発光禁止）にして撮影することをおすすめします。

フラッシュランプについて

シャッターボタン半押し時に、フラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

また、フラッシュ撮影後にバッテリー残量が少なくなると、フラッシュ充電が終わるまで液晶モニターが消灯し、フラッシュランプが点滅します。

フラッシュモードの設定について

（オート撮影）モード、高感度モード、または露出モード**P**、**M**の初期設定は、AUTO（自動発光）です。

（オート撮影）モードで設定したフラッシュモードは、（赤目軽減自動発光）に設定して撮影した場合を除き、電源をOFFにするとAUTO（自動発光）に戻ります。

シーンモードのフラッシュモード設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、各シーンモードの初期設定に戻ります。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「**アドバンスト赤目軽減方式**」を採用しています。

フラッシュが本発光する前に、少量発光を数回行い赤目現象の発生を軽減します。

さらに、カメラが撮影した画像を記録する前に赤目現象を検出したときは、赤目部分に補正を加えてから記録します。

撮影する際には、次の点にご注意ください。

- シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。そのため、シャッターチャンスを優先する撮影にはおすすめできません。
- 次の撮影ができるまでの時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

セルフタイマーを使う

記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。タイマー時間は10秒と3秒の2種類から選べます。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。

1 ◎（セルフタイマー）を押す

- 液晶モニターにセルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［10s］または［3s］を選び、Ⓚボタンを押す

- ［10s］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［3s］（3秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、セルフタイマーランプが点滅します。シャッターが切れる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれるまでの秒数が液晶モニターに表示されます。シャッターがきれると、セルフタイマーは［OFF］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

フォーカスモードを使う

撮影目的に合わせて、次のフォーカスモードを選べます。

AF　通常AF

被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。レンズから50 cm以上離れた被写体を撮影するときに使います。

▲　遠景AF

窓越しの景色や風景、建物などを撮影するときに使います。レンズから5 m以上離れた遠景にピントを合わせます。フラッシュは⊕（発光禁止）になります。

✿　マクロAF

花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。液晶モニターの✿マークが緑色で表示される広角側のズーム位置では、レンズ前約5 cmまでの被写体にピントを合わせることができます。

フォーカスモードの設定方法

1　✿（フォーカスモード）を押す

- 液晶モニターにフォーカスモードの設定メニューが表示されます。

2　マルチセレクターでフォーカスモードを選び、OKボタンを押す

- 設定したフォーカスモードが表示されます。

- AF（通常AF）にすると、AFが5秒間表示されます。

- OK ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

マクロAFについて

マクロAFでは、カメラが自動的にAF（オートフォーカス）によるピント合わせを繰り返しますが、シャッターボタンを半押しするとピントを固定して、露出が決まります。
ただし、モードダイヤルが**P**、**M**のときは、［AF-MODE］（95）の設定が優先されます。

フォーカスモードの設定について

◘（オート撮影）モード、高感度モード、または露出モード**P**、**M**の初期設定は、AF（通常AF）です。◘（オート撮影）モードで設定したフォーカスモードは、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、AF（通常AF）に戻ります。シーンモードのフォーカスモード設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、各シーンの初期設定に戻ります。

露出を補正する

画像全体を明るくしたいときや暗くしたいときなどに使います。

1 ☑（露出補正）を押す

- 液晶モニターに露出補正値が表示されます。
- モードダイヤルが**M**（マニュアル露出）のときは、露出補正ができません。

2 マルチセレクターの▲または▼を押して補正値を選ぶ

- 液晶モニターに露出補正の設定メニューが表示されます。
- 被写体が暗すぎるとき：補正値を＋側に設定してください。
- 被写体が明るすぎるとき：補正値を－側に設定してください。
- －2.0 EVから＋2.0 EVの範囲で補正できます。

3 シャッターボタンを押して撮影する

- 手順2と3を繰り返して、補正値を少しずつずらしながら撮影することもできます。

4 ⓚボタンを押して露出補正の設定を終了する

- ［0.0］以外に設定すると、液晶モニターに☑マークと補正値が表示されます。
- 露出補正を解除するときは、ⓚボタンを押す前に補正値を［0.0］にするか、手順1と2の順に操作して補正値を［0.0］にしてください。

露出補正の設定について

（オート撮影）モード、シーンモードの露出補正の設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると解除され、[0.0]に戻ります。

露出補正について

- 構図の大部分が非常に明るいとき（太陽が反射する水や砂、雪を撮影するときなど）、背景が被写体より明るすぎるときは、カメラが自動的に被写体を暗くする傾向があります。被写体が暗すぎるときは、露出補正値を「＋」側に設定してください。
- 構図の大部分が非常に暗いとき（暗い緑の森を撮影するときなど）、背景が被写体よりも暗すぎるときは、カメラが自動的に被写体を明るくする傾向があります。被写体が明るすぎるときは、露出補正値を「－」側に設定してください。

シーンモード

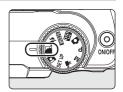
撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った撮影ができます。モードダイヤルだけで選べるシーンとシーンメニューから選ぶシーンがあります。

モードダイヤルで選べるシーン

ポートレート	風景	夜景ポートレート

シーンメニューから選ぶシーン

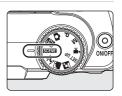
スポーツ	夜景	逆光
パーティー	クローズアップ	パノラマアシスト
海・雪	ミュージアム	音声レコード※
夕焼け	打ち上げ花火	
トワイライト	モノクロコピー	

※「音声レコード機能を使う」(62)をご覧ください。

画質と画像のサイズ設定

シーンモードでMENUボタンを押すと、メニューが表示され、[画質](81)と[画像サイズ](82)を設定できます。[画質]と[画像サイズ]の設定は他のモードと連動しているため、どのモードで設定しても同じ設定になります。

シーンモードの撮影方法

（ポートレート）、（風景）、（夜景ポートレート）の場合

1 モードダイヤルを （ポートレート）、（風景）、（夜景ポートレート）に合わせる

2 構図を決めて撮影する

その他のシーンの場合

1 モードダイヤルを SCENE に合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターでシーンを選んで、ⓀボタンをⒷ押す

3 構図を決めて撮影する

シーンモードの種類と特徴

ポートレート

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ 94）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

フラッシュ	※	セルフタイマー	OFF※	フォーカス	AF	露出補正	0.0※	AF補助光	AUTO※

※ 変更できます。

風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

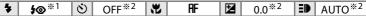
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプ（22）が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	フォーカス	遠景	露出補正	0.0※	AF補助光	OFF

※ 変更できます。

説明で使われているマークについて

はフラッシュモード（26）、はセルフタイマー（28）、はフォーカスモード（29）、は露出補正（30）、はAF補助光（111）の設定です。

シーンモードの設定について

各シーンで変更したフラッシュモード、セルフタイマーモード、フォーカスモードまたは露出補正の設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、それぞれのシーンの初期設定に戻ります。

夜景ポートレート

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ 94）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

	※1		OFF※2		AF		0.0※2		AUTO※2

※1 赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。

※2 変更できます。

スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、ピント合わせを繰り返します。
- シャッターボタンを全押ししている間、約1.1コマ/秒で最大5コマまで連写できます（画質がNORMAL、画像サイズが 3264×2448のとき）。ピントと露出、ホワイトバランスは1コマ目を撮影した条件に固定されます。
- 画質、画像サイズやSDカードの種類により、最大連写速度が遅くなることがあります。
- 画面中央にピントが合います。

			OFF		AF		0.0※		OFF

※ 変更できます。

パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。

	※1		OFF※2		AF		0.0※2		AUTO※2

※1 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。変更できます。

※2 変更できます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。

NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

シーンに合わせて撮影する

海・雪

晴天の海や砂浜、雪景色などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	AUTO※	セルフタイマー	OFF※	マクロ	AF	露出補正	0.0※	D-ライティング	AUTO※

※ 変更できます。

夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	発光禁止※	セルフタイマー	OFF※	マクロ	AF	露出補正	0.0※	D-ライティング	AUTO※

※ 変更できます。

トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプ（22）が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	マクロ	遠景	露出補正	0.0※	D-ライティング	OFF

※ 変更できます。

三脚マーク：三脚マークがついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。
NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

夜景

夜景の撮影に使います。スローシャッターで夜景の雰囲気を表現します。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプ（22）が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

			OFF※				0.0※		OFF

※ 変更できます。

クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- フォーカスモード（29）が （マクロ AF）になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- マークが緑色で表示される広角側のズーム位置では、レンズ前約 5 cm までの被写体にピントを合わせられます。
- ズーム位置により最短撮影距離は変わります。
- ［AF エリア選択］は［マニュアル］になり、ボタンを押すとピント合わせを行う AF エリアを選べます（93）。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、ピント合わせを繰り返します。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。

	AUTO※		OFF※				0.0※		AUTO※

※ 変更できます。被写体から50 cm以上離れなければ、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- BSS（ベストショットセレクター）（90）を使って撮影できます。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。

			OFF※1		AF※2		0.0※1		OFF

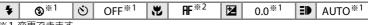
※1 変更できます。
※2 （マクロAF）に変更できます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。
：がついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

打ち上げ花火

スローシャッターで、打ち上げ花火をきれいに撮影できます。

- 遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプ(22)が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

⚡	⊘	⏲	OFF	🌷	▲	±	0.0	D	OFF

モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、フォーカスモード(29)の[マクロ AF]を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。

⚡	⊘※1	⏲	OFF※1	🌷	AF※2	±	0.0※1	D	AUTO※1

※1 変更できます。
※2 (マクロAF)に変更できます。

逆光

逆光状態での撮影に使います。フラッシュが常に発光し、人物が影にならずに美しく撮影できます。

- 画面中央でピントを合わせます。

⚡	⚡	⏲	OFF※	🌷	AF	±	0.0※	D	AUTO※

※ 変更できます。

⌘ パノラマアシスト

撮影した複数の画像をつなげて、パノラマ写真に合成したいときに使います。撮影した画像は、付属のソフトウェア「Panorama Maker」を使ってパソコンでパノラ マ写真に合成します。

- 画面中央でピントを合わせます。

⚡	⊛※	⏲	OFF※	🌷	AF※	☒	0.0※	≡D	AUTO※

※ 変更できます。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。

1 シーンメニューからマルチセレクターで［⌘ パノラマアシスト］を選び、Ⓚボタンを押す（☒32）

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが黄色で表示されます。

2 マルチセレクターでパノラマ方向を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 右方向につなげるときは ▷、左方向は ◁、上方向は △、下方向は ▽ を選びます。
- 選んだ方向に▷マークが移動し、Ⓚ ボタンを押すと白色に変わります。
- フラッシュモード（☒26）、セルフタイマー（☒28）、フォーカスモード（☒29）、露出補正（☒30）を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度Ⓚボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

3 一番端の被写体に構図を合わせ、1 コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約 1/3 の部分に半透明で表示されます。

4 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

5 必要な画像を撮影し終わったら、OK ボタンを押す

- 手順2の状態に戻ります。

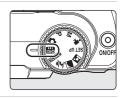
パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー、フォーカスモード、露出補正は、撮影開始前に設定してください。撮影開始後に設定の変更はできません。撮影開始後は、画質（81）、画像サイズ（82）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（113）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AEL表示について

パノラマアシストモードでは、1コマ目を撮影すると、液晶モニターにAELが表示されます。これは、露出とホワイトバランスがロック（固定）されたことを示しています。これによってパノラマ写真を構成するすべての画像を、同じ露出とホワイトバランスで撮影できます。

Panorama Maker について

Panorama Maker は、付属のSoftware Suite CD-ROMを使ってパソコンにインストールできます。撮影した画像をパソコンに転送して（67）、Panorama Maker でパノラマ写真に合成してください（70）。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

高感度モード

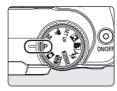
高感度モードでは、ISO感度が高めに設定されるため、薄暗いシーンでも手ブレや被写体ブレの影響を軽減し、その場の雰囲気を活かした撮影ができます。被写体の明るさに応じて、ISO感度は1600まで自動的に上がります。

1 モードダイヤルを🅗に合わせる

2 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、画面中央の被写体にピントが合います（22、93）。

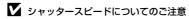
高感度モードのご注意

- 薄暗い場面でも手ブレを軽減しますが、フラッシュを使わないときは、カメラを三脚などで固定して撮影することをおすすめします。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。
- 極端に暗い場面では、ピントが合いにくくなることがあります。

高感度モードで使用可能な機能について

- フラッシュモード（26）の変更、セルフタイマー（28）、フォーカスモード（29）、および露出補正（30）の設定ができます。
- 高感度モードのときにMENUボタンを押すと、[ISO感度設定] 以外の撮影メニュー項目を設定できます（80）。

P（プログラムオート）

シャッタースピードと絞り値をカメラが自動的にセットします。
撮影メニューで、ホワイトバランス、ISO 感度、連写などを設定して撮影できます。

1 モードダイヤルを **P** に合わせる

2 被写体や撮影意図に応じて設定を変更する

- MENU（メニュー）ボタンを押して、撮影メニューの項目を設定します（80）。
- フラッシュモード（26）、セルフタイマー（28）、フォーカスモード（29）または露出補正（30）を設定します。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

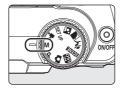
- 初期設定では、画面中央の被写体にピントが合います（93）。

シャッタースピードについてのご注意

［連写］（90）を［連写］、［BSS］、または［マルチ連写］にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

M（マニュアル露出）

シャッタースピードと絞り値を手動でセットします。露出を自分で設定したいときに使います。
撮影メニューで、ホワイトバランス、ISO 感度、連写などを設定して撮影できます。

1 モードダイヤルを **M** に合わせる

2 マルチセレクターの ▶ を押して、シャッタースピードを選ぶ

- マルチセレクターの ◀ または ▶ を押すごとに、シャッタースピードと絞り値が交互に切り換わります。

シャッタースピード

3 マルチセレクターの ▲▼ を押して、シャッタースピード（1/1000～8秒）を設定する

- 設定したシャッタースピードと絞り値の組合せによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに数秒間表示されます。

- 設定された露出値とカメラの測光した適正露出値の差は、露出インジケーターに－2 EVから+2 EVの範囲で1/3段ごとに表示されます。
  図は露出が1段オーバーのときの例です。

←露出オーバー　露出アンダー→
+2　±0　-2
+1　-1
露出インジケーター

4 マルチセレクターの◀または▶を押して、絞り値を選ぶ

絞り値

5 マルチセレクターの▲▼を押して、絞り値2段のいずれかを設定する

- 必要に応じて、手順2～5を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。
- 設定が終了したらOKボタンを押します。

6 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、画面中央の被写体にピントが合います（93）。

絞りについて

このカメラの絞り制御は、NDフィルター選択方式のため、絞り値を変更しても被写界深度（背景のぼかし具合）は変わりません。

低速シャッタースピードについてのご注意

1/4秒以下の低速シャッタースピードに設定すると、撮影画像にノイズが出ることがあります。このようなときは液晶モニターのシャッタースピード表示が赤色に点灯します。撮影メニューの［ノイズ低減］（96）を［自動ON］にすることをおすすめします。

シャッタースピードについてのご注意

- ［連写］（90）の設定を［連写］、［BSS］、または［マルチ連写］にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。
- ［ISO 感度設定］（88）を［800］に設定すると、シャッタースピードが最長4秒まで、［1600］以上に設定すると、最長2秒までに制限されます。

ISO感度についてのご注意

［ISO 感度設定］（88）を ［オート］に設定すると、ISO感度はISO64に固定されます。

M（マニュアル露出）で使用可能な機能について

- フラッシュモード（26）の変更、セルフタイマー（28）、およびフォーカスモード（29）の設定ができます。
- **M**（マニュアル露出）のときにMENUボタンを押すと、撮影メニュー項目を設定できます（80）。

機能設定の切り換え方法

マルチセレクターを使って次のように切り換えます。

［AFエリア選択］が［マニュアル］のとき（93）

シャッタースピードと絞り値の切り換え：◀または▶

▶ / OK

フラッシュモード：▲
セルフタイマー：◀
フォーカスモード：▼

OK / OK

AFエリア移動：▲▼◀または▶

露出について

シャッタースピードと絞り値を調整して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードによって、撮影される画像の流動感などが変わってきます。

シャッタースピード　絞り値

速いシャッタースピードのとき
1/1000秒

遅いシャッタースピードのとき
1/30秒

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（24）でW（）ボタンを押すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。
サムネイル表示では、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容	
画像を選ぶ	OK	マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。	9
表示コマ数を増やす（4→9→16コマ）	W（）	W（）ボタンを押します。	–
表示コマ数を減らす（16→9→4コマ）	T（Q）	T（Q）ボタンを押します。	
1コマ表示に戻る	OK	OKボタンを押します。	24
撮影モードに切り換える	▶ / シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	24

サムネイルに表示されるマーク

プロテクト設定（101）した画像には、右のマークが表示されます（16コマサムネイル表示を除く）。動画は映画フィルムの1コマのように表示されます。

：プロテクト設定マーク

動画表示

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（24）でT（Q）ボタンを押すと、表示中の画像の中央部が約3倍に拡大表示されるクイック拡大表示になります。
画面右下のガイドは、どの部分を表示しているかを示しています。マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示する部分を切り換えます。

顔認識して撮影した画像（94）は、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます。複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、マルチセレクターの▲▼◀▶を押すと表示する顔が切り換わります。

さらにズームボタンを操作すると、拡大率を変更できます。拡大率は画面に表示され、最大約10倍まで拡大できます。
拡大表示では、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容	
拡大倍率を上げる	T（Q）	T（Q）ボタンを押します。	–
拡大倍率を下げる	W（▦）	W（▦）ボタンを押します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。	–
表示範囲を移動する	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、表示範囲を移動します。	9
1コマ表示に戻る	OK	OKボタンを押します。	24
画像の一部を切り抜く（トリミング）	MENU	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	51
撮影モードに切り換える	▶ → シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	24

画像を編集する

このカメラでは次の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別の画像として、異なるファイル名で保存されます（120）。

編集の種類	内容	用途
D-ライティング	画像の暗い部分を明るく補正する	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正したいとき
電子式手ブレ補正	撮影後に手ブレした画像を補正する	撮影後に、手ブレによる画像の乱れを補正して鮮明な画像にしたいとき
トリミング	画像の一部を切り抜く	被写体をクローズアップしたいとき、構図に手を加えたいときなど
スモールピクチャー	小さいサイズの画像を作成する	メールに添付して送信する場合など、画像のサイズを小さくしたいとき
黒フレーム	画像の周りに黒い枠を付ける	画像に境界線を付けたいときなど

画像編集を適用する際のご注意

- ［画像サイズ］（82）を［3:2 3264×2176］、［16:9 3200×1800］にして撮影した画像は、D-ライティング、トリミング、スモールピクチャーができません。
- COOLPIX P50以外で撮影した画像は、COOLPIX P50で編集できません。
- COOLPIX P50以外のデジタルカメラでは、COOLPIX P50で編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

	2回目の編集				
1回目の編集	D-ライティング	電子式手ブレ補正	トリミング	スモールピクチャー	黒フレーム
D-ライティング	×	○	○	○	×
電子式手ブレ補正	○	×	○	○	○
トリミング	×	×	×	×	×
スモールピクチャー	×	×	×	×	×
黒フレーム	×	×	×	×	×

- 同じ画像編集を2回行うことはできません。
- D-ライティング、電子式手ブレ補正、トリミング、スモールピクチャーを組み合わせて編集する場合は、D-ライティングまたは電子式手ブレ補正を先に行ってください。

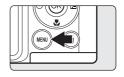
元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［プリント指定］（77）や［プロテクト設定］（101）された画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

画像の暗い部分を明るく補正する（D-ライティング）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。D-ライティングで補正した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（☞24）またはサムネイル表示（☞45）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［D-ライティング］を選び、Ⓚボタンを押す

- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ［実行］を選び、Ⓚボタンを押す

- 補正画像が作成されます。
- D-ライティングを中止するときは、［キャンセル］を選び、Ⓚボタンを押します。
- D-ライティングを行った画像は、再生画面で🖼が表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→☞120

撮影後に手ブレを補正する（電子式手ブレ補正）

撮影するときに電子式手ブレ補正を行っていない画像でも、1コマ表示で OK：VR（手ブレ補正ガイド）が表示されている画像は、撮影した後に電子式手ブレ補正を行えます。撮影後に電子式手ブレ補正を行った画像は、元画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（24）で画像を選び、OKボタンを押す

- OK：VRが表示された画像のみ手ブレ補正できます。

2 マルチセレクターで［実行］を選び、OK ボタンを押す

- 補正画像が作成されます。
- 手ブレ補正を中止するときは、［キャンセル］を選び、OKボタンを押します。
- 手ブレ補正を行った画像は、再生画面でVRが表示されます。

電子式手ブレ補正についてのご注意

「画像編集の制限」（47）のほか、以下の画像に対して電子式手ブレ補正はできません。

- 手ブレ補正済みのため、VRが表示された画像
- 手ブレ補正できなかったため、VRが表示された画像
  - マルチ連写で撮影した画像（90）
  - デート写し込みした画像（109）
  - 手ブレが大きい画像、および手ブレが小さすぎる画像
  - 低速シャッタースピードで撮影された画像

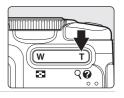
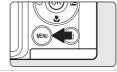
関連ページ

撮影時の電子式手ブレ補正（セットアップメニュー）→111
記録データのファイル名とフォルダ名→120

再生機能を使いこなす

画像の一部を切り抜く（トリミング）

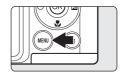
拡大表示（46）中に MENU:✂ マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示で**T**（Q）ボタンを押して、画像を拡大表示する

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- **T**（Q）ボタンまたは**W**（⊞）ボタンを押して拡大率を調節します。
- マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 マルチセレクターで［はい］を選び、OK ボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［いいえ］を選びます。

- トリミングで作成した画像の画像サイズは、拡大倍率により異なります。次のうちから最適なものをカメラが自動的に選びます（単位：ピクセル）。
  - 8M 3,264×2,448　・5M 2,592×1,944　・4M 2,272×1,704　・3M 2,048×1,536
  - 2M 1,600×1,200　・1M 1,280×960　・PC 1,024×768　・TV 640×480
  - 320×240　・160×120
- トリミングで作成された画像の画像サイズが 320×240または160×120のときは、グレーの枠で囲まれて表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

小さいサイズの画像を作成する（スモールピクチャー）

撮影した画像から、小さいサイズの画像を新しく作ります。作成するスモールピクチャーの大きさは、次の3種類から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

種類	内容
640×480	テレビでの表示に適しています。
320×240	ホームページでの使用に適しています。
160×120	電子メールへの添付に適しています。

1 再生モードの1コマ表示（24）またはサムネイル表示（45）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［スモールピクチャー］を選び、Ⓚボタンを押す

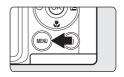
3 スモールピクチャーのサイズを選び、Ⓚ ボタンを押す

4 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 作成をやめるときは、［いいえ］を選びます。
- スモールピクチャーで作成した画像は、グレーの枠で囲まれて表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

再生機能を使いこなす

画像の周りに黒い枠を付ける（黒フレーム）

撮影した画像の周りに黒い枠を付けます。黒い枠を付けた画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（🔍24）またはサムネイル表示（🔍45）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［黒フレーム］を選び、OKボタンを押す

3 「はい」を選び、OKボタンを押す

- 黒い枠を付けた画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［いいえ］を選びます。

黒フレームについてのご注意

- 黒い枠は画像の上に重ねられるため、黒い枠の部分の画像が削られます。
- 黒い枠を付けた画像を縁なしでプリントすると、黒い枠がプリントされないことがあります。

関連ページ

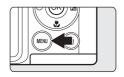
記録データのファイル名とフォルダ名→🔍120

画像に音声メモを付ける

撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

音声メモを録音する

1 再生モードの1コマ表示（24）で画像を選び、MENUボタンを押す

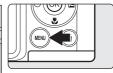
- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［音声メモ］を選び、OK ボタンを押す

- 音声メモの録音画面になります。

3 OKボタンを押して音声メモを録音する

- OK ボタンを押している間、約 20 秒まで音声メモを録音できます。
- 録音中はカメラのマイクに触れないようご注意ください。
- 録音中はRECと♪が点滅します。
- 録音が終了すると、音声メモ再生画面になります。「音声メモを再生する」（55）の手順3にしたがって再生できます。
- 録音前または録音終了後に MENU ボタンを押すと、再生モードの1コマ表示に戻ります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像には、再生モードの1コマ表示で[♪]が表示されます。

1 再生モードの 1 コマ表示（24）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクター で［音声メモ］を選び、OKボタンを押す

- 音声メモの再生画面になります。

3 OKボタンを押して音声メモを再生する

- 再生を途中で止めるには、OKボタンを押します。
- 再生中はズームボタンで音量を調節できます。
- 再生前または再生終了後に MENU ボタンを押すと、再生モードの1コマ表示に戻ります。

音声メモを削除する

音声メモ付き画像を選んで🗑ボタンを押します。マルチセレクターで［[♪]］を選んでOKボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

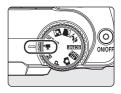
音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX P50以外で撮影した画像には、COOLPIX P50で音声メモを付けられません。

動画を撮影する

動画（音声付き）を撮影できます。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

- 液晶モニターに、記録できる時間が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影を開始する

- ピントは画面中央にある被写体に合います。
- 液晶モニターで記録できる残り時間の目安を確認できます。

- 撮影を終了するには、もう一度シャッターボタンを全押しします。

動画撮影についてのご注意

- フォーカスモード（🔍29）の変更と露出補正（🔍30）ができます。フラッシュ（🔍26）は、微速度撮影のみで使えます。セルフタイマーは使えません。
- 動画撮影中にフラッシュモード、フォーカスモードまたは露出補正の設定や変更はできません。撮影を開始する前に設定してください。
- 動画撮影を開始すると光学ズームは使えません。
  電子ズームは動画撮影の開始前は使えませんが、微速度撮影以外の動画撮影中は2倍まで作動します。

動画撮影の設定を変更する

- 動画メニューで［動画設定］、［電子式手ブレ補正］を変更できます（🔍57）。
- ［動画設定］が［微速度撮影］のときは、動画に音声は付きません。

動画撮影の設定を変更する（動画メニュー）

動画メニューで［動画設定］、［電子式手ブレ補正］（58）を変更できます。
動画モードで、MENUボタンを押して動画メニューを表示し、マルチセレクターで設定してください。

動画設定

撮影する動画の種類を選びます。

種類	画像サイズとフレーム数
TV再生640★（初期設定）	画像サイズ：640×480ピクセル 撮影フレーム数：30フレーム/秒
TV再生640	画像サイズ：640×480ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
カメラ再生320	画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
長時間再生160	画像サイズ：160×120ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
微速度撮影640★（59）	自動的に一定間隔で静止画を連続撮影してから、その静止画をつないで動画として記録します。 音声は記録できません。 画像サイズ：640×480ピクセル 再生フレーム数：30フレーム/秒
セピア動画320	セピア調の動画を撮影します。 画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
白黒動画320	白黒の動画を撮影します。 画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒

動画の記録可能時間/フレーム数

種類	内蔵メモリー（約52 MB）	SDカード（256 MB）
TV再生640★（初期設定）	47秒	約3分40秒
TV再生640	1分33秒	約7分20秒
カメラ再生320	3分4秒	約14分20秒
長時間再生160	10分10秒	約47分40秒
微速度撮影640★（59）	555フレーム	動画1ファイルにつき1800フレーム
セピア動画320	3分4秒	約14分20秒
白黒動画320	3分4秒	約14分20秒

※ 数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類によって記録可能時間は異なります。このカメラで記録できる動画1ファイルの最大容量は4 GBです。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

電子式手ブレ補正

動画撮影時の電子式手ブレ補正を設定します。

種類	内容
ON	［微速度撮影 640★］以外の動画撮影時に手ブレの影響を軽減します。
OFF（初期設定）	電子式手ブレ補正を行いません。

電子式手ブレ補正の設定状態は、撮影時の画面で確認できます（6）（［OFF］のときは、何も表示されません）。

微速度撮影をする

花のつぼみが開く様子を早送りで観察したいときなどに便利です。

1 動画メニューからマルチセレクターで［動画設定］を選び、Ⓚボタンを押す

2 ［微速度撮影640★］を選び、Ⓚボタンを押す

3 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

- ［30秒］、［1分］、［5分］、［10分］、［30分］、［60分］から選べます。

4 MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

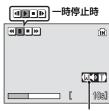
5 シャッターボタンを全押しして、撮影を始める

- 撮影の合間は液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次の撮影時間になると、自動的に液晶モニターが点灯します。

6 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影フレーム数が1,800フレームに達すると、撮影が自動的に終了します。1,800フレーム撮影した場合は、再生時間が60秒の動画になります。

微速度撮影についてのご注意

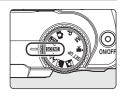
- フラッシュモード（26）、フォーカスモード（29）、露出補正（30）は、1フレーム目を撮影する前に設定してください。2フレーム目以降はすべて同じ設定で撮影されます。撮影開始後に設定の変更はできません。
- 途中で電池が切れないように、充分に残量のある電池をお使いください。
- 別売のACアダプター EH-65Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P50へ電源を供給できます。EH-65A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- 微速度撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

動画を再生する

1コマ表示（24）で動画モードのアイコンが表示されている画像が動画です。OKボタンを押すと、再生できます。

- 動画モードのアイコンは、撮影時の動画設定（57）によって異なります。

再生中はズームボタンで音量を調節できます。
マルチセレクターの◀▶を押して、画面上部の操作パネルのボタンを選ぶと、次の操作ができます。

<table>
<tr><th>機能</th><th>ボタン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>巻き戻し</td><td>◀◀</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、巻き戻します。</td></tr>
<tr><td>早送り</td><td>▶▶</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、早送りします。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一時停止</td><td rowspan="4">❚❚</td><td colspan="2">OKボタンを押すと、一時停止します。
一時停止中にマルチセレクターでコマ送り/コマ戻しができます。また、画面上部の操作ボタンで、以下の操作ができます。</td></tr>
<tr><td>◀❚❚</td><td>OKボタンを押すと、1コマ戻ります。押し続けると、連続してコマ戻しします。</td></tr>
<tr><td>❚❚▶</td><td>OKボタンを押すと、1コマ進みます。押し続けると、連続してコマ送りします。</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>OKボタンを押すと、再生を再開します。</td></tr>
<tr><td>再生終了</td><td>■</td><td colspan="2">OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。</td></tr>
</table>

動画ファイルを削除する

動画再生中や、1 コマ表示(24)、サムネイル表示(45)で動画を選んで🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。
[はい] を選んでOKボタンを押し、動画ファイルを削除します。削除をやめるときは、[いいえ] を選んでOKボタンを押します。

音声を録音する

音声レコードモードで、ボイスレコーダーのように、内蔵メモリーやSDカードに音声を録音できます。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENUボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで🎙（音声レコード）を選び、OKボタンを押す

- 液晶モニターに録音できる時間が表示されます。

3 シャッターボタンを全押しして録音を開始する

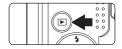
- 録音中はAFランプが点灯します。
- 録音開始後、カメラを操作しない状態が約30秒続くと、節電機能が働き液晶モニターが消灯します。
- 音声録音中の操作→63

4 シャッターボタンを全押しして録音を終了する

- 内蔵メモリー /SD カードの残量がなくなったとき、または録音時間が 5 時間に達すると、録音が自動的に終了します。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

音声録音中の操作

機能	ボタン	内容
液晶モニターを点灯する	▶	液晶モニターが消灯しているときは、▶ボタンを押します。
録音を一時停止/再開する	OK	OKボタンを押します。一時停止中は、AFランプが点滅します。
インデックス※を付ける	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。 インデックス（しおり）を付けると、再生時に聞きたい場所を見つけやすくなります。録音開始時のインデックスは01で、その後マルチセレクターを押すたびに、98までのインデックスを付けられます。
録音を終了する	シャッターボタン	シャッターボタンを全押しします。

※ パソコンに転送した音声データは、QuickTime　などのソフトウェアで再生できますが、カメラで設定したインデックスは機能しません。

音声を再生する

1 [音声レコード] 画面（🔍62の手順3）で▶ボタンを押す

2 マルチセレクターで再生する音声レコードのデータを選び、Ⓚボタンを押す

- 音声が再生されます。

音声再生中の操作

音声レコードのデータ再生中は、ズームボタンで音量を調節できます。
マルチセレクターの◀▶を押して、画面上部の操作パネルのボタンを選ぶと、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容
巻き戻し	◀◀	Ⓚボタンを押している間、巻き戻します。
早送り	▶▶	Ⓚボタンを押している間、早送りします。
前のインデックスへ	⏮	Ⓚボタンを押すと、前のインデックスに戻ります。
次のインデックスへ	⏭	Ⓚボタンを押すと、次のインデックスに進みます。
一時停止	⏸ ▶	Ⓚボタンを押すと、一時停止します。 一時停止中に、Ⓚボタンを押すと、再生を再開します。
再生終了	■	Ⓚボタンを押すと、[音声データ選択] 画面に戻ります。

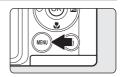
音声データを削除する

音声の再生中に🗑ボタンを押すか、[音声データ選択] 画面で削除する音声データを選んで🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。[はい] を選んでⓀボタンを押し、音声データを削除します。削除をやめるときは、[いいえ] を選んでⓀボタンを押します。

音声レコード機能を使う

音声データをコピーする

内蔵メモリーからSDカードに、またはSDカードから内蔵メモリーに、音声レコードで録音したデータをコピーできます。
カメラにSDカードを入れてから操作してください。

1 ［音声データ選択］画面（64 手順2）で、MENUボタンを押す

2 マルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

IN➡SD：内蔵メモリーからSDカードへコピー

SD➡IN：SDカードから内蔵メモリーへコピー

3 コピーする方法を選び、OKボタンを押す

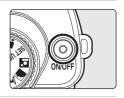
- ［選択データコピー］→手順4
- ［全データコピー］→手順5

4 コピーするデータを選ぶ

- ▶を押してデータの選択（チェックマークあり）/選択解除（チェックマークなし）を切り換えます。
- 複数のデータを選べます。
- 設定が終了したらOKボタンを押します。

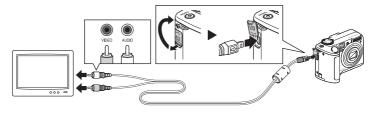
5 コピーを確認する画面が表示されたら、［はい］を選び、OKボタンを押す

- 音声データがコピーされます。

音声データコピーについてのご注意

COOLPIX P50以外で録音した音声データについては、音声データコピー機能の動作は保証しておりません。

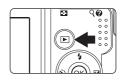
［音声データがありません］のメッセージについて

SDカードに音声レコードのデータが記録されていないときに▶ボタンを押すと（64 手順1）、［音声データがありません］と表示されますが、MENUボタンを押して［音声データコピー］画面を表示させ、内蔵メモリー内の音声データをSDカードにコピーできます。

テレビに接続する

カメラを付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）でテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

- AVケーブルの黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、白のプラグを音声入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを押し続けて電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

画像がテレビに映らないときは

［セットアップ］メニュー（103）→［ビデオ出力］（114）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、ソフトウェア「Nikon Transfer」を使って、撮影した画像をパソコンに転送して保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

カメラとパソコンを接続する前に、付属のSoftware Suite CD-ROMを使って、パソコンに「Nikon Transfer」やパノラマ写真を作成する「Panorama Maker」などのソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストール方法は、簡単操作ガイドをご覧ください。

カメラを接続できるパソコンのOS

Windows

32 bit版のWindows Vista（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate）、Windows XP Service Pack 2（Home Edition/Professional）

- Windows 2000 Professionalをお使いの方は、カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに転送してください（69）。

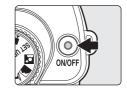
Macintosh

Mac OS X（version 10.3.9、10.4.9）

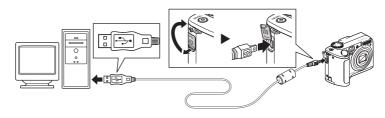
対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

電源についてのご注意

- パソコン、プリンターなどと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のある電池をお使いください。
- 別売のACアダプター EH-65Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P50へ電源を供給できます。EH-65A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

1 Nikon Transferがインストールされているパソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

4 カメラの電源をONにする

- Windows Vistaの場合：
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたら、［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする-Nikon Transfer使用］を選んで、Nikon Transferを起動します。
  常にNikon Transferで画像を転送する場合は、［このデバイスの場合は常に次の動作を行う］にチェックマークを入れてください。
- Windows XPの場合：
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたら、［Nikon Transfer コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする］を選び、［OK］をクリックしてNikon Transferを起動します。
  常にNikon Transferで画像を転送する場合は、［この動作は常にこのプログラムを使う］にチェックマークを入れてください。
- Mac OS Xの場合：
  Nikon Transferのインストールで、［自動起動の設定］を［はい］にした場合は、パソコンでNikon Transferが自動起動します。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 Nikon Transferの起動が終わったら、画像を転送する

- Nikon Transferの［転送開始］ボタンをクリックします。記録されているすべての画像がパソコンに転送されます（Nikon Transferの初期設定）。

- 転送が終わると、転送先のフォルダが自動的に開きます（Nikon Transferの初期設定）。
- Nikon Transferの操作方法については、Nikon Transferのヘルプをご覧ください。

6 転送が終わったら、カメラとパソコンの接続を外す

カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 2000 Professionalをお使いの方へ

カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに転送してください。

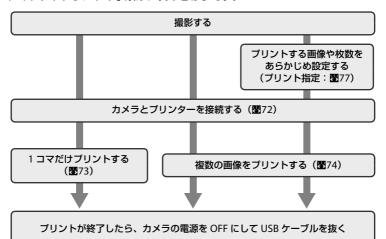
2 GB以上のSDカードをお使いの場合は、カードリーダーなどの機器がSDカードに対応している必要があります。

- カードリーダーなどにSDカードを挿入すると、Nikon Transferが自動起動します（Nikon Transferの初期設定）。上記の手順5を参照して、画像を転送してください。
- カメラをパソコンに接続しないでください。接続してしまった場合は、パソコンに［新しいハードウェアの検索ウィザードの開始］と表示されます。［キャンセル（中止）］を選んで画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。
- 内蔵メモリーのデータは、カメラで SD カードにコピーしてから（65、98、102）転送してください。

パソコンで画像を表示したり音声を再生するには

- 画像を保存した転送先のフォルダを開き、OS付属のビューアなどで表示してください。
- 音声データは、QuickTimeなどで再生できます。

パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker）

- シーンモードの［パノラマアシスト］機能（38）を使って撮影した画像を、Panorama Makerを使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Makerは、付属のSoftware Suite CD-ROMでインストールできます。
- Panorama Makerをインストールしたら、次のように起動します。
  Windows：
  ［スタート］から［すべてのプログラム］（Windows 2000は［プログラム］）→［ArcSoft Panorama Maker 4］→［Panorama Maker 4］の順にクリックしてください。
  Macintosh：
  ［アプリケーション］フォルダを開き、［Panorama Maker 4］をダブルクリックしてください。
- Panorama Makerの使い方は、Panorama Makerの操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→（120）

プリンターに接続する

PictBridge（138）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、次のとおりです。

電源についてのご注意

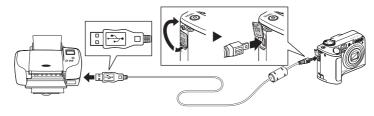
- パソコン、プリンターなどと接続するときは、途中で電池が切れないように、充分に残量のある電池をお使いください。
- 別売のACアダプター EH-65Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P50へ電源を供給できます。EH-65A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

画像のプリント方法について

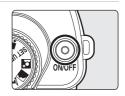
SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に次の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、カメラの［プリント指定］メニューを使って、あらかじめSDカードに設定できます（77）。

イメージリンク対応プリンターでプリントする

イメージリンク対応プリンターにカメラを直接取り付けてプリントできます。詳しくは、79とプリンターの説明書をご覧ください。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに①の画面が表示された後、［プリント画像選択］画面②が表示されます。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（72）、次の手順でプリントしてください。

1 マルチセレクターの ◀▶ を押してプリントする画像を選び、Ⓚボタンを押す

- **W**（）ボタンを押すと12コマ表示に、**T**（Q）ボタンを押すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［プリント枚数設定］を選び、Ⓚボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、Ⓚボタンを押す

4 ［用紙設定］を選び、Ⓚボタンを押す

5 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［プリンターの設定］を選びます。

6 ［プリント実行］を選び、ⓚボタンを押す

7 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（72）、次の手順でプリントしてください。

1 ［プリント画像選択］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- ［プリントメニュー］画面が表示されます。

2 マルチセレクターで［用紙設定］を選び、ⓚ ボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

3 用紙サイズを選び、ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［プリンターの設定］を選びます。

4 [プリント選択]、[全画像プリント]または[DPOFプリント]を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像と、それぞれのプリント枚数(各9枚まで)を設定できます。

- マルチセレクターの ◀▶ を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- **T**(Q)ボタンを押すと 1 コマ表示に、**W**(▦)ボタンを押すと 12 コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら Ⓚ ボタンを押します。
- 表示される右の画面で、[プリント実行]を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- [キャンセル]を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 表示される右の画面で、[プリント実行]を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- [キャンセル]を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［プリント指定］（77）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

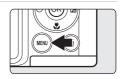
- 表示される右の画面で、［プリント実行］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［キャンセル］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

- ［画像の確認］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

用紙設定について

用紙設定画面では、［プリンターの設定］以外に、［L サイズ］、［2L サイズ］、［ハガキ］、［100×150mm］、［4×6 in.］、［8×10 in.］、［Letter］、［A3 サイズ］、［A4 サイズ］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

SDカードにプリントする画像や枚数を設定する（プリント指定）

DPOF（🔖138）対応のプリンターやプリントサービス店で画像をプリントする際は、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます。
プリント指定で設定した画像の選択やプリント枚数で、カメラをPictBridge対応プリンターに接続してプリントすることもできます。カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます。

1 再生モードでMENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［プリント指定］を選び、Ⓚボタンを押す

3 ［複数画像選択］を選び、Ⓚボタンを押す

4 プリントする画像と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- マルチセレクターの ◀▶ を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- **T**（Q）ボタンを押すと1コマ表示に、**W**（▦）ボタンを押すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらⓀボタンを押します。

5 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［日付］を選んで㊙ボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［撮影情報］を選んで㊙ボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［選択終了］を選んで㊙ボタンを押し、設定を有効にします。

［プリント指定］を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

［プリント指定］で設定した［日付］と［撮影情報］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（138）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（76）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［プリント指定］メニューを表示すると、［日付］と［撮影情報］の設定はリセットされますのでご注意ください。

プリント指定をすべて取り消すには

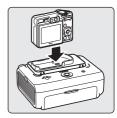
すべての画像に対するプリント指定を取り消すには、手順3で［プリント指定取消］を選び㊙ボタンを押します。

日付のプリントについて

プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［日時設定］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

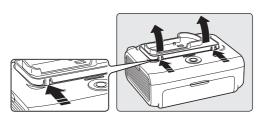
［デート写し込み］について

セットアップメニューの［デート写し込み］（109）を使うと、画像に直接日付を写し込んで記録できます。「デート写し込み」した画像は、日付の印字に対応していないプリンターでも「日付」を入れてプリントできます。

デート写し込みした画像は、［プリント指定］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

イメージリンク対応のプリンターと接続する

プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書をご覧ください。

1 付属のドックインサート PV-16 をプリンターに取り付ける

2 カメラの電源をOFFにして、ドックインサートに取り付ける

3 プリントする

- プリンターの説明書にしたがってプリントしてください。

ドックインサートを取り外すときは

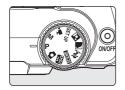
2ヶ所の印に親指をかけ、押しながら持ち上げてください。

イメージリンク対応プリンター接続時のご注意

カメラをプリンターに接続後、プリンターを操作しない状態が約1分以上続くと、液晶モニターの表示が暗くなります。そのまま約7分経過すると、自動的にカメラの電源がOFFになります。

撮影に関する設定―撮影メニュー

露出モード**P**、**M**の撮影メニュー、または高感度モードの高感度メニューには、次の項目があります。

	項目	参照ページ
	画質※1	81
	記録時の画質（画像の圧縮率）を選びます。	
	画像サイズ※1、3	82
	記録時の画像の大きさを選びます。	
	仕上がり設定※3	84
	画像の仕上がりを、撮影状況や好みに合わせて設定します。	
WB	**ホワイトバランス**※3	86
	画像を見た目に近い色で記録するように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。	
ISO	**ISO感度設定** ※2、3	88
	被写体の明るさなどに応じて、ISO感度を設定します。	
	測光方式	89
	カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。	
	連写※3	90
	連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。	
	AFエリア選択※3	93
	画面のどの位置でピントを合わせるかを設定します。	
	AF-MODE	95
	ピントの合わせ方を設定します。	
	調光補正	96
	フラッシュの発光量を補正します。	
NR	**ノイズ低減**※3	96
	低速のシャッタースピードで撮影したときに画像に入るノイズを低減します。	

※1 その他の撮影モードのメニューでも設定できます（動画メニューを除く）。
※2 高感度メニューでは、設定できません。
※3 これらの機能は、他の機能と同時に設定できないことがあります（97）。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

撮影メニュー /高感度メニューの表示方法

モードダイヤルを**P**（プログラムオート）、**M**（マニュアル露出）または高感度（高感度モード）に合わせます。MENUボタンを押して、撮影メニューまたは高感度メニューを表示します。

- モードダイヤルが高感度のときは、高感度メニューを表示します。
- 撮影メニューまたは高感度メニューから撮影に戻るには、MENUボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

画質

記録する画像の圧縮率を選びます。
画質を高くするほど、画像の細部の描写が保たれますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。

FINE	FINE
	［NORMAL］よりも精細な画質になります。画像を拡大するときや、プリンターで細かく表現したいときなどに適しています。圧縮率は1/4です。
NORMAL	NORMAL（**初期設定**）
	一般的な撮影に適した画質モードです。圧縮率は1/8です。
BASIC	BASIC
	画質は［NORMAL］よりも低くなりますが、電子メールに添付したりホームページに掲載したりするときに適しています。圧縮率は1/16です。

画質の設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（6～7）。

関連ページ

記録可能コマ数→83

撮影、再生、セットアップメニューを使う

画像サイズ

記録する画像の大きさ（ピクセル数）を設定します。
画像サイズを大きくするほど、大きくプリントするのに適していますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。
画像サイズを小さくすると、電子メールで送ったりホームページで使用するのに適しています。ただし、サイズが小さい画像を大きくプリントしようとすると、粒子の粗い画像になります。

画像サイズ	内容
3264× 2448（初期設定）	ファイルサイズと画像のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像サイズです。
2592× 1944	
2048× 1536	［3264×2448］、［2592×1944］よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。
1600× 1200	
1280× 960	
1024× 768	パソコンのモニター表示に適した画像サイズです。
640× 480	電子メールへの添付や、テレビへの表示に適した画像サイズです。
3264× 2176	35 mm判フィルムカメラで撮影したときと同じ縦横比（3:2）の画像になります。
3200× 1800	ワイドテレビと同じ縦横比（16:9）の画像になります。

画像サイズの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（6～7）。

記録可能コマ数

それぞれの［画像サイズ］（82）と［画質］（81）の組み合わせで、内蔵メモリーや256 MBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像サイズ	画質	内蔵メモリー（約52 MB）	SDカード※1（256 MB）	プリント時のサイズ※2
3264×2448（初期設定）	FINE NORMAL BASIC	13コマ 26コマ 52コマ	約60コマ 約120コマ 約240コマ	約28×21 cm
2592×1944	FINE NORMAL BASIC	21コマ 41コマ 81コマ	約95コマ 約195コマ 約380コマ	約22×16 cm
2048×1536	FINE NORMAL BASIC	33コマ 65コマ 123コマ	約155コマ 約305コマ 約575コマ	約17×13 cm
1600×1200	FINE NORMAL BASIC	54コマ 104コマ 185コマ	約255コマ 約485コマ 約865コマ	約14×10 cm
1280×960	FINE NORMAL BASIC	83コマ 151コマ 277コマ	約390コマ 約705コマ 約1300コマ	約11×8 cm
1024×768	FINE NORMAL BASIC	123コマ 222コマ 370コマ	約575コマ 約1040コマ 約1730コマ	約9×7 cm
640×480	FINE NORMAL BASIC	277コマ 416コマ 666コマ	約1300コマ 約1950コマ 約3120コマ	約5×4 cm
3264×2176	FINE NORMAL BASIC	15コマ 30コマ 58コマ	約70コマ 約140コマ 約275コマ	約28×19 cm
3200×1800	FINE NORMAL BASIC	18コマ 36コマ 70コマ	約85コマ 約170コマ 約330コマ	約27×15 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、液晶モニターには「9999」と表示されます。

※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

仕上がり設定

記録する画像の仕上がり（色の鮮やかさや輪郭の強調度合いなど）を撮影シーンや好みに合わせて設定します。

	標準（初期設定）
	標準的な画像に仕上げます。ほとんどの撮影状況に対応できます。
	ソフトに
	被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像を加工したいときに適しています。
	鮮やかに
	彩度を高め、赤色と緑色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。
	より鮮やかに
	彩度とコントラストを高め、被写体の輪郭を強調した画像になります。
	ポートレート
	人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。
	カスタマイズ
	仕上がりを自分で細かく設定できます（85）。
	白黒
	白黒写真を撮影したいときに使います。

仕上がり設定の設定は、撮影時の画面で確認できます（6）。

仕上がり設定についてのご注意

［仕上がり設定］が［標準］、［ソフトに］、［鮮やかに］、［より鮮やかに］、または［ポートレート］の場合、同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって仕上がり具合は変化します。一連の写真を写すときに同じような仕上がり具合にしたい場合は、［カスタマイズ］を選んで［オート］以外の項目を設定してください。

仕上がり設定の［カスタマイズ］について

仕上がり設定で［カスタマイズ］を選ぶと、次の項目を個別に設定できます。

コントラスト

画像の階調（コントラスト）を設定します。
コントラストを強くすると硬調な画像になり、弱くすると軟調な画像になります。かすんだ遠景の撮影などには強めが、晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは弱めが適しています。
初期設定は［オート］です。

輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。
強めにするとくっきりとした画像になり、弱めにするとソフトな画像になります。
初期設定は［オート］です。

彩度調整

画像の色の鮮やかさを設定します。
［強め］にするとより鮮やかになり、［弱め］にすると鮮やかさが抑えられます。
初期設定は［オート］です。

輪郭強調についてのご注意

輪郭強調の効果は、撮影時の画面では確認できません。画像を再生して確認してください。

WB　ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整を行う必要があります。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［オート］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

AUTO	**オート（初期設定）**
	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。
PRE	**プリセット Manual（プリセットマニュアル）**
	特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（87）をご覧ください。
	晴天
	晴天の屋外での撮影に適しています。
	電球
	白熱電球の下での撮影に適しています。
	蛍光灯
	白色蛍光灯の下での撮影に適しています。
	曇天
	曇り空の屋外での撮影に適しています。
	フラッシュ
	フラッシュを使う撮影に適しています。

ホワイトバランスの設定は、撮影時の画面で確認できます（［オート］のときは、何も表示されません）（6）。

［オート］、［フラッシュ］以外を選んだ場合

［オート］、［フラッシュ］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを（発光禁止）に設定してください（26）。

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明の下で撮影するときなど、［オート］や［電球］などの設定では望ましい結果が得られない場合に使います（赤みがかった照明の下で撮影した画像を、普通の照明の下で撮影したように見せたいときなど）。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 ［ホワイトバランス］画面からマルチセレクターで［PRE プリセット Manual］を選び、OK ボタンを押す

• レンズが望遠側のズーム位置になります。

3 ［新規設定］を選ぶ

• 前回プリセットしたホワイトバランスを使いたいときは、［前回の設定］を選んで OK ボタンを押してください。ホワイトバランスが前回のプリセット値に設定されます。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を写す

5 OK ボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

• シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます。

• 画像は記録されません。

プリセットマニュアルについてのご注意

手順5で OK ボタンを押したとき、フラッシュは発光しません。このため、フラッシュ撮影時のホワイトバランスの測定はできません。

ISO ISO感度設定

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当する数値を設定します。ISO感度を高くすると、暗い場所や動いている被写体の撮影に効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

オート（初期設定）

明るい場所ではISO 64になり、暗い場所では自動的にISO 1000までISO感度が高くなります。モードダイヤルが**M**のときに［オート］に設定すると、ISO感度は64に固定されます。

64、100、200、400、800、1600、2000

ISO感度を選んだ値に固定します。

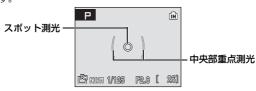
ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（6）。［オート］に設定した場合、ISO 64で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（27）。

シャッタースピードについてのご注意

［ISO 感度設定］を［800］に設定すると、シャッタースピードが最長4秒まで、［1600］以上に設定すると、最長2秒までに制限されます。

測光方式

露出を合わせるためにカメラが被写体の明るさを測ることを測光といいます。測光する方式を設定します。

マルチパターン（初期設定）	さまざまな撮影状況で適正な露出が得られるマルチパターン測光になります。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。
中央部重点	画面に表示されている中央部重点測光範囲で測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（23）を使用してください。
スポット	画面中央部に表示されているスポット測光範囲で測光します。被写体と背景の明るさが著しく異なるときなどに使います。被写体がスポット測光範囲に入るように撮影してください。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（23）を使用してください。
AFスポット	選択されているAFエリアを測光し、露出値を決定します。［AFエリア選択］（93）が［中央］以外のときに設定できます。

測光方式についてのご注意

電子ズームが 1.2 ～ 1.8 倍のときは、［測光モード］は［中央部重点］になります。電子ズームが 2.0 ～ 4.0 倍のときは、［スポット］になります。ただし、電子ズームのときは、測光範囲は表示されません。

測光方式表示について

［測光方式］を［中央部重点］または［スポット］に設定すると、測光範囲が液晶モニターに表示されます。

連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。
連写、BSS、またはマルチ連写に設定すると、フラッシュは発光禁止になり、ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。

単写（初期設定）

1コマずつ撮影します。

連写

シャッターボタンを全押ししている間､約1.1コマ/秒で最大5コマまで連写できます（画質がNORMAL、画像サイズが 3264×2448のとき）。

BSS（ベストショットセレクター）

暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。
シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け（最大10コマ）、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

マルチ連写

シャッターボタンを1回全押しすると約1.6コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像（画質がNORMAL、画像サイズが2592×1944）として記録します。
電子ズームは使えません。

インターバル撮影

あらかじめ設定した撮影間隔（インターバル）で、静止画を自動的に連続撮影（最大1800コマ）します（92）。

連写モードの設定は、撮影時の画面で確認できます（［単写］のときは、何も表示されません）（6）。

BSSについてのご注意

BSSは静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

シャッタースピードについてのご注意

［連写］を［連写］、［BSS］、または［マルチ連写］にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

連写についてのご注意

画質や画像サイズ、SDカードの種類により、最大連写速度が遅くなることがあります。

インターバル撮影の使い方

撮影間隔（インターバル）を決めて、静止画を自動的に連続撮影します。
撮影間隔は、[30秒]、[1分]、[5分]、[10分]、[30分] または [60分] に設定できます。

1 [連写] 画面からマルチセレクターで [インターバル撮影] を選び、Ⓚボタンを押す

2 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

3 MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

4 シャッターボタンを全押しして、1コマ目の撮影を開始する

- 撮影の合間は、液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次のコマの撮影直前になると、自動的に液晶モニターが再点灯します。

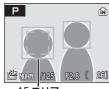
5 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー/SDカードの残量がなくなったとき、または撮影コマ数が1,800コマに達すると、撮影が自動的に終了します。

インターバル撮影についてのご注意

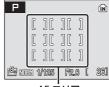
- 途中で電池が切れないように、充分に残量のある電池をお使いください。
- 別売のACアダプター EH-65Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P50へ電源を供給できます。EH-65A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- インターバル撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

[+] AFエリア選択

画面のどの位置でピントを合わせるかを設定します。
電子ズーム使用時は、［AFエリア選択］の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。

顔認識オート

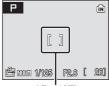
カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→94）。複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［オート］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。

- 液晶モニターを OFF にすると、AF エリアは中央に固定されます。

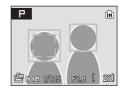
オート

9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアにピントが合います。
シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。
半押しすると、ピントが合ったAFエリアが液晶モニターに表示されます。

- 液晶モニターを OFF にすると、AF エリアは中央に固定されます。

マニュアル

画面内の99カ所から、ピントを合わせたい位置を自分で選びます。
比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、液晶モニターに表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。
フラッシュモードやフォーカスモード、セルフタイマー、露出補正の設定を変更するには、Ⓚボタンを押していったんAFエリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。もう一度Ⓚボタンを押すと、再びAFエリアを選べる状態になります。

[▪] 中央（初期設定）

画面中央の被写体にピントが合います。
AFエリアが画面中央に常に表示されます。

顔認識撮影について

AFエリア選択を［顔認識オート］にしたり、シーンモードを［ポートレート］または［夜景ポートレート］にすると、顔認識機能が働きます。
人物の顔（正面）にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。

1 構図を決める

- カメラが顔（正面）を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれます。
- 複数の人物の顔を認識したときは、最もカメラに近い人物の顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の人物の顔が一重枠で囲まれます。最大12人の顔を認識します。

2 シャッターボタンを半押しする

- 二重枠で囲まれた顔にピントが合います。二重枠が緑色になりピントが固定されます。
- 二重枠が黄色で点滅しているときは、顔にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

顔認識についてのご注意

- ［顔認識オート］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、［AFエリア選択］は、［オート］になります。
- シーンモードの［ポートレート］または［夜景ポートレート］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- 次のような場合は、カメラは人物の顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 人物が横を向いている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどの撮影条件によっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（23）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、オート撮影モードにするか、高感度モード、露出モード**P**、**M**でAFエリア選択を［マニュアル］か［中央］に切り換え、同距離にある別の被写体にピントを合わせるフォーカスロック撮影（23）をお試しください。
- 液晶モニターがガイド表示のときに［AFエリア選択］を［顔認識オート］にすると、情報ON表示に変更されます。
- 顔認識して撮影した画像は、1コマ表示およびサムネイル表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→23

AF-MODE（オートフォーカスモード）

ピントの合わせ方を設定します。

AF-S	**シングルAF（初期設定）**
	シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。
AF-F	**常時AF**
	撮影中、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。

調光補正

背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。

－0.3～－2.0

－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。

0（初期設定）

調光補正を行いません。

+0.3～+2.0

0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。

調光補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（[0] のときは、何も表示されません）（6）。

NR ノイズ低減

暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、画像にノイズが入る場合があります。このノイズを低減する設定を行います。ノイズ低減処理が行われると、撮影開始から内蔵メモリー/SDカードへ画像が記録されるまでの時間が、通常より長くかかります。

NR 自動ON

ノイズが発生するような遅いシャッタースピードになると、ノイズ低減を行います。
[連写]を[単写]および[インターバル撮影]以外にすると、ノイズ低減は行われません。

OFF OFF（初期設定）

ノイズ低減を行いません。

ノイズ低減の設定は、撮影時の画面で確認できます（［OFF］のときは、何も表示されません）（6）。

同時に設定できる機能の制限

露出モード（**P**、**M**）および ISO（高感度）モードでは、以下のように、複数の機能を同時に設定できないことがあります。

フラッシュモード

［連写］を［連写］、［BSS］、または［マルチ連写］にすると、フラッシュモードは⊛に固定されます。
［連写］を［単写］か［インターバル撮影］に戻すと、元のフラッシュモードに戻ります。

セルフタイマー

セルフタイマーをONにすると、［連写］は設定にかかわらず、［単写］として動作します。
セルフタイマーをOFFにする（またはセルフタイマー撮影が完了する）と、［連写］の設定が有効になります。

フォーカスモード

［AFエリア選択］が［顔認識オート］のときにフォーカスモードを［▲遠景AF］にすると、［AFエリア選択］は［オート］に変更されます。フォーカスモードを［▲遠景AF］以外にすると、［顔認識オート］に戻ります。

連写

［連写］を［マルチ連写］にすると、［画質］は［NORMAL］、［画像サイズ］は［5M 2592×1944］に変更されます。

ノイズ低減

［ノイズ低減］が［自動ON］のときに、［連写］を［単写］または［インターバル撮影］以外にすると、ノイズ低減処理は行われません。

再生に関する設定—再生メニュー

再生メニューには、以下の項目があります。

	D-ライティング	49
	撮影した画像の暗い部分を明るく補正します。	
	プリント指定	77
	プリンターでプリントする画像や、その枚数などを設定します。	
	スライドショー	100
	内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	
	削除	101
	画像を削除します。	
	プロテクト設定	101
	大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	
	スモールピクチャー	52
	撮影した画像から、小さいサイズの画像を新しく作ります。	
	画像コピー	102
	内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	
	黒フレーム	53
	撮影した画像に黒い枠を付けた画像を新しく作ります。	

再生メニューの表示方法

▶ボタンを押して再生モードにします。
MENUボタンを押して、再生メニューを表示します。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（9）。
- 再生メニューから再生に戻るには、MENUボタンを押します。

画像選択画面の操作方法

以下のメニューでは、画像選択時に右のような画面が表示されます。

・ **再生メニュー**： プリント指定（77）
削除（101）
プロテクト設定（101）
画像コピー（102）

・ **セットアップメニュー**： オープニング画面（105）

次の手順で画像を選びます。

1 マルチセレクターの◀▶を押して、画像を選ぶ

- ［オープニング画面］の画像選択では、1画像しか選べません。→手順3へ
- **T**（Q）ボタンを押すと1コマ表示に、**W**（▦）ボタンを押すと12コマ表示に切り換わります。

2 ▲▼を押してON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ON にすると、選択画像にチェックマークが表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 Ⓚボタンを押す

- 設定が有効になります。

スライドショー

内蔵メモリー/SDカードに記録した画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 マルチセレクターで［開始］を選び、ⓚ ボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［開始］を選ぶ前に［インターバル設定］を選んでⓚボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［開始］を選ぶ前に［エンドレス］を選んでⓚボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にマルチセレクターの ▶ を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 再生中にⓚボタンを押すと一時停止します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中に［終了］を選び、ⓚ ボタンを押すと再生メニューに戻ります。［再開］を選ぶとスライドショーを再開します。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

スライドショーについてのご注意

- 動画（61）は1フレーム目だけを表示します。
- ［エンドレス］で再生していても、何も操作しないで約30分経過すると、液晶モニターが消灯します。何も操作しないまま、さらに約3分経過すると、電源がOFFになります。

削除

画像を削除します。

削除画像選択

画像選択画面（99）で、画像を選んで削除します。

全画像削除

すべての画像を削除します。

画像削除についてのご注意

- 削除した画像はもとに戻せないため、ご注意ください。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- マークが表示されている画像は、プロテクト（保護）されているので削除されません。

プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます（操作方法→99）。
ただし、内蔵メモリー /SDカードを初期化（フォーマット、113）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。
プロテクト設定した画像は、1コマ表示と削除画像選択画面でマーク（7）が、4コマまたは9コマサムネイル表示でマーク（45）が表示されます。

画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 マルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

- 内蔵→SD：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
  SD→内蔵：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、OKボタンを押す

- 選択画像コピー：画像選択画面（99）で、画像を選んでコピーします。
  全画像コピー：すべての画像をコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできる画像ファイルの形式は、JPEG、AVI、WAV です。これ以外の形式の画像ファイルはコピーできません。
- 画像コピーでは、画像に付けた「音声メモ」（54）も画像と同時にコピーしますが、「音声レコード機能」（62）で録音したデータはコピーできません。音声レコードのデータは、［音声データコピー］でコピーできます（65）。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［プリント指定］（77）を行った画像をコピーしても、プリント指定の設定内容はコピーされません。［プロテクト設定］（101）した画像をコピーすると、コピー先の画像もプロテクトされます。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［撮影画像がありません］と表示されますが、MENUボタンを押すと［画像コピー］画面が表示され、内蔵メモリーの画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→120

カメラに関する基本設定―セットアップメニュー

セットアップメニューには、以下の項目があります。

セットアップメニューの表示方法

モードダイヤルをSET UPに合わせると、セットアップメニューが表示されます。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（9）。
- セットアップメニューを終了するには、モードダイヤルを他のモードに合わせます。

MENU　メニュー切り換え

メニューの表示方法を切り換えます。

文字タイプ（初期設定）

メニュー名を一覧表示します。

アイコンタイプ

メニューの全項目を1画面に表示できます。

オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに液晶モニターに表示するオープニング画面を設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しません。

COOLPIX

オープニング画面を表示します。

撮影した画像

内蔵メモリー/SDカードの画像を、オープニング画面として登録できます。画像選択の画面で画像を選び（99）、OKボタンを押します。
登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。

- ［画像サイズ］（82）を［3:2 3264 × 2176］、［16:9 3200 × 1800］にして撮影した画像、およびトリミング（51）やスモールピクチャー（52）で作成した画像サイズ 160 × 120 の画像は選べません。

⊕ 日時設定

カメラに内蔵された時計を設定します。
海外旅行などに便利なワールドタイム（時差を自動的に計算する機能）も設定できます。

日時
内蔵時計の日付と時刻を設定します。 **設定方法については「表示言語と日時を設定する」の手順6、7（15）をご覧ください。**
ワールドタイム
自宅（⌂）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）の設定や変更を行います。また、訪問先のタイムゾーン（✈）を登録すると、自宅（⌂）との時差（108）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 マルチセレクターで［ワールドタイム］を選び、Ⓞボタンを押す

- ［ワールドタイム］画面が表示されます。

2 ✈（訪問先）を選び、Ⓞボタンを押す

- 訪問先の時計に切り換わります。
- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域でお使いになる場合は、マルチセレクターで［夏時間］を選んでⓄボタンを押し（時間が1時間進みます）、▲を押します。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

3 マルチセレクターの▶を押す

- ［訪問先の設定］画面が表示されます。

4 訪問先の地域を選び、Ⓚボタンを押す

- 訪問先の地域が切り換わります。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に✈マークが表示されます。

日時設定についてのご注意

カメラの内蔵時計は、カメラに入れる電池とは別の時計用電池で動いています。カメラに電池を入れるか別売のACアダプターを接続すると、時計用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

⌂（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で⌂（自宅）マークを選んでください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で⌂（自宅）マークを選び、✈（訪問先）と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

- 夏時間（サマータイム）が実施されていないときに日時設定した場合：
日時設定後に夏時間が実施された場合は、［夏時間］のチェックボックスをオン［✔］にすると、カメラの時刻が1時間進みます。
- 夏時間の実施中に［夏時間］のチェックボックスをオン［✔］にして日時設定した場合：
日時設定後に夏時間の期間が終了したときは、［夏時間］のチェックボックスをオフにすると、カメラの時刻が1時間戻ります。

タイムゾーンについて（☞15）

タイムゾーンと時差の関係は以下の表のとおりです。以下にない時差の場合は、［日時設定］で正確な時刻に合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix, La Paz（デンバー、フェニックス、ラパス）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）
–13	Caracas, Manaus（カラカス、マナウス）
–12	Buenos Aires, SaoPaulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）
–10	Azores（アゾレス）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）
–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–7	Athens, Helsinki（アテネ、ヘルシンキ）
–6	Moscow, Nairobi（モスクワ、ナイロビ）
–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調整できます。初期設定は［3］です。

デート写し込み

画像に直接日時を写し込みます。日付の印字（78）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

OFF（初期設定）

日付、時刻のどちらも写し込みません。

年・月・日

撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。

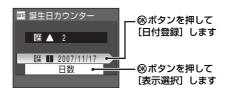
年・月・日・時刻

撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。

誕生日カウンター

お子様の成長記録や植物の観察日記などに便利な機能です。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（［OFF］のときは、何も表示されません）（6）。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- ［画像サイズ］（82）が［640×480］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像サイズは［1024×768］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［日時設定］（14、106）での設定と同じになります。
- 一部の撮影モードでは、日時を写し込めません（131）。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［デート写し込み］で日時を写し込んでいない画像でも、［プリント指定］（77）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

誕生日カウンターの使い方

撮影日と一緒に、誕生日など特定の日付から撮影日までの日数を写し込めます。誕生日や結婚式までの日数をカウントダウン形式で入れたり、お子様が産まれた日からの経過日数を入れるときなどに使います。

日付登録

1〜3のいずれかを選んでマルチセレクターの▶を押すと、［日付設定］画面が表示されます。「表示言語と日時を設定する」の手順6（15）と同様の操作で日付を設定後、Ⓚ ボタンを押してください。日付は3種類まで登録できます。他の日付に切り換えるには、1〜3のいずれかを選んで、Ⓚ ボタンを押してください。

表示選択

特定の日までの日数の表示形式を選んでⓀボタンを押してください。

誕生日カウンターを使って撮影した画像には、以下のように日付が写し込まれます。

記念日まであと 2 日の場合

記念日から 2 日後の場合

電子式手ブレ補正

静止画を撮影するときの電子式手ブレ補正を設定します。

AUTO（初期設定）

次の条件がそろうと、静止画の撮影時に電子式手ブレ補正を行い、手ブレの影響を軽減します。
- フラッシュモードが［発光禁止］または［スローシンクロ］のとき
- シャッタースピードが低速のとき
- ［連写］の設定が［単写］のとき

OFF

電子式手ブレ補正を行いません。

［AUTO］に設定すると、撮影画面にが表示されたときに、撮影状況に応じてカメラが補正を行います（6）。

電子式手ブレ補正のご注意
- カメラの電源をONにした直後や待機状態から復帰した直後は、電子式手ブレ補正が作動しないことがあります。
- 露光時間が一定値よりも長時間の場合、電子式手ブレ補正は作動しません。
- 手ブレが大きい場合、電子式手ブレ補正の効果が低くなります。
- 被写体ブレは補正できません。

再生モードでの電子式手ブレ補正のマークについて
電子式手ブレ補正が行われた画像には、再生モードの1コマ表示でが表示されます。電子式手ブレ補正ができない画像にはが表示されます（6、7）。

動画の電子式手ブレ補正について
動画撮影時の手ブレ補正は、動画メニュー（57）の［電子式手ブレ補正］（58）で設定します。

AF補助光

AF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。ただし、［AUTO］に設定していても、一部のシーンモードではAF補助光が点灯しません。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがありますので、ご注意ください。

回 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

ON（初期設定）

光学ズームが最も望遠側にある状態でT（Q）ボタンを押すと、電子ズーム（21）が作動します。

クロップ

電子ズームによる画像の劣化が発生しない範囲内に電子ズームの倍率を制限します。

OFF

電子ズームは作動しません（動画撮影時を除く）。

電子ズームについてのご注意

- 電子ズームの作動中はAFエリア（93）が［中央］に固定されます。
- 次の場合は電子ズームを使用できません。
  - （ポートレート）モード、（夜景ポートレート）モードのとき
  - ［連写］（90）が［マルチ連写］のとき
  - 動画撮影開始前（微速度撮影以外の動画撮影中は2倍まで作動）
- 電子ズームが1.2～1.8倍のときには、［測光モード］は［中央部重点］に、2.0～4.0倍のときには［スポット］になります。

操作音

操作音について設定します。

設定音

オープニング音、設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）および警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）のON（初期設定）/OFFを設定します。

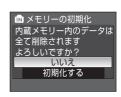
シャッター音

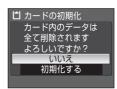
シャッターをきったときのシャッター音のON（初期設定）/OFFを設定します。

オートパワーオフ

電源をONにしたまま何も操作しないで一定時間が過ぎると、カメラは電池の消耗を抑えるために液晶モニターを消灯し、待機状態（13）に入ります。待機状態になると、電源ランプが点滅し、何も操作しないでさらに約3分経過すると、自動的に電源がOFFになります。
このメニューでは、カメラが待機状態に入るまでの時間を［30秒］（初期設定）、［1分］、［5分］、または［30分］から選べます。

オートパワーオフについてのご注意

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。
- メニュー表示中：3分
- スライドショー再生中：30分

/メモリー/カードの初期化（フォーマット）

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［メモリーの初期化］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［カードの初期化］が表示されます。

初期化についてのご注意

- 内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、内蔵メモリー/SDカード内のデータはすべて削除されます。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、電池/SDカードカバー開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをCOOLPIX P50で初めて使うときは、このカメラで初期化してからお使いください。

言語/LANGUAGE

画面に表示される言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

ビデオ出力

テレビとの接続に必要な設定を行います。
ビデオの出力方式を［NTSC］と［PAL］から選べます。［NTSC］と［PAL］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

🄲 設定クリアー

［はい］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（26）	自動発光
セルフタイマー（28）	OFF
フォーカスモード（29）	通常AF
露出補正（30）	0.0

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（31）	スポーツ

動画メニュー

項目	初期設定
動画設定（57）	テレビ再生640★
微速度撮影のインターバル設定（59）	30秒
電子式手ブレ補正（58）	OFF

撮影メニュー

項目	初期設定
画質（☞81）	NORMAL
画像サイズ（☞82）	8M 3264×2448
仕上がり設定（☞84）	標準
仕上がり設定のカスタマイズ（☞85）	コントラスト：オート 輪郭強調：オート 彩度調整：オート
ホワイトバランス（☞86）	オート
ISO感度設定（☞88）	オート
測光方式（☞89）	マルチパターン
連写（☞90）	単写
インターバル撮影のインターバル設定（☞92）	30秒
AFエリア選択（☞93）	中央
AF-MODE（☞95）	シングルAF
調光補正（☞96）	0
ノイズ低減（☞96）	OFF

セットアップメニュー

項目	初期設定
メニュー切り換え（☞104）	文字タイプ
オープニング画面（☞105）	なし
画面の明るさ（☞109）	3
デート写し込み（☞109）	OFF
電子式手ブレ補正（☞111）	AUTO
AF補助光（☞111）	AUTO
電子ズーム（☞112）	ON
設定音（☞112）	ON
シャッター音（☞112）	ON
オートパワーオフ（☞113）	30秒

その他

項目	初期設定
用紙設定（🔖73、74）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（🔖100）	3秒

- ［設定クリアー］を行うと、ファイル番号の連番（🔖120）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SDカード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。
  ファイル名の連番を0001に戻したいときは、内蔵メモリー /SDカード内の画像をすべて削除（🔖101）してから、［設定クリアー］を行ってください。
- 以下のメニューの項目は、［設定クリアー］を行っても初期設定には戻りません。
  撮影メニュー：
  プリセットマニュアルで測定したホワイトバランスのプリセット値（🔖87）
  セットアップメニュー：
  ［日時設定］（🔖106）、［誕生日カウンター］の登録日（🔖110）、［言語/LANGUAGE］（🔖114）、［ビデオ出力］（🔖114）、［電池設定］（🔖117）

電池設定

電池残量の表示（🔖18）を正しく機能させるために、使う電池の種類に合わせて設定してください。

アルカリ電池（初期設定）	アルカリ単3形電池（LR6）
COOLPIX (NiMH)	ニコン製Ni-MHリチャージャブルバッテリー EN-MH1（ニッケル水素単3形充電池）、オキシライド単3形乾電池
リチウム	リチウム単3形電池（FR6）

Ver. バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Ni-MHリチャージャブルバッテリー EN-MH1-B2（2本入り）
充電器	バッテリーチャージャー MH-71※
ACアダプター	ACアダプター EH-65A※ ＜EH-65Aの取り付け方＞ 1 2 3 電池/SDカードカバーを閉める前に、ACアダプターのコードが電池室の溝に入っていることを必ず確認してください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーを破損する恐れがあります。 ACアダプター EH-62Bは使用できません。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP14

※ 日本国内専用電源コード（AC100V 対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

推奨SDカード一覧

以下のSDカードの動作を確認しています。

SanDisk社製	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 10 MB/sの高速転送タイプ:512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 20 MB/sの高速転送タイプ:1 GB、2 GB※1
東芝製	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 10 MB/sの高速転送タイプ:256 MB、512 MB、1 GB 20 MB/sの高速転送タイプ:512 MB、1 GB、2 GB※1
松下電器（Panasonic）製	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 10 MB/sの高速転送タイプ:4 GB※1、2 20 MB/sの高速転送タイプ:512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2
Nikon製	10 MB/sの高速転送タイプ:1 GB

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がこれらのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格 に対応しています。

上記カードの機能、動作の詳細については、各カードメーカーにお問い合わせください。

最新の動作確認済みSDカードについては、当社ホームページのサポート情報をご覧ください。

付録

記録データのファイル名とフォルダ名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声ファイルには、以下のようなファイル名が付けられます。

DSCN0001.JPG

識別子
（カメラの画面には表示されません）

編集していない静止画および付随する音声メモ、動画、音声レコード	DSCN
再生時に電子式手ブレ補正を行った画像および付随する音声メモ	VSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
スモールピクチャーおよび付随する音声メモ	SSCN
D-ライティングまたは黒フレーム画像および付随する音声メモ	FSCN
微速度撮影で撮影した画像	INTN

ファイル番号
（0001からの連番で付けられます）

拡張子
（ファイルの種類を示します）

静止画	.JPG
動画	.AVI
音声メモ、音声レコード	.WAV

- ファイルを保存するフォルダは、「フォルダ番号＋NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダ内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダ内のファイル番号が9999に達したときも新しいフォルダが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。
- 音声レコード（62）のデータは「SOUND」フォルダに保存されます。
- パノラマアシストモード（38）では、撮影のたびに「フォルダ番号＋P_XXX」という名前のフォルダ（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- インターバル撮影（92）では撮影のたびに「フォルダ番号＋INTVL」という名前のフォルダ（例：101INTVL）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。

• 画像データや音声データを内蔵メモリーとSDカードの間でコピーする場合（☞65、102）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」または「選択データコピー」：
    使用中のフォルダ（または次回の撮影で使われるフォルダ）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」または「全データコピー」：
    データはフォルダごとにコピーされます。フォルダ名は「コピー先の最大フォルダ番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
• フォルダ番号が999のときにファイル数が200個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（☞113）してください。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ/ファインダー

レンズやファインダーのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、電池を取り出してください。電池を取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。
次の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50 ℃以上、または－10 ℃以下の場所
- 湿度が60 %を超える場所

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください

カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズやレンズバリアーに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください

カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバックやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には

カメラを長期間お使いにならないときは、必ず電池を取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安に電池を入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● 電池やACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください

電源がONの状態で、電池やACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニター表面の保護アクリルが傷つく原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● スミアーについて

明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニターに色のついた光の帯が表れることがあります。この現象をスミアー現象といいますが、故障ではありません。撮影した画像（動画を除く）に影響はありません。

● セルフタイマーランプ/AF補助光について

セルフタイマーランプ/AF補助光（4、28、111）に使用されているLED（発光ダイオード）は、右記のIEC規格に準拠しています。

電池について

● 充電池は、撮影前に充電する

別売のリチャージャブルバッテリー EN-MH1をお使いの際は、撮影前に充電してください。ご購入時にはフル充電されておりませんので、ご注意ください。

● 使用上の注意

- 長時間お使いになった電池は、発熱していることがあるので、ご注意ください。
- 電池を取り出すときは、カメラの電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターが消灯していることをご確認ください。
- 使用推奨期限の過ぎた電池はお使いにならないでください。
- 残量の無くなった電池をカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返さないでください。

● 予備電池を用意する

撮影の際は予備の電池をご用意ください。特に、日本国外の地域によっては電池の入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

● 低温時の電池について

電池の一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、電池やカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には残量が充分な電池を使い、予備の電池を用意する

低温時に消耗した電池をお使いになると、カメラが作動しないことがあります。低温時に撮影する場合は、新しい電池かフル充電した充電池を使用し、保温した予備の電池を用意して温めながら交互にお使いください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻るとお使いいただける場合があります。

● 電池の接点について

電池の接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがあります。電池を入れる前に接点を乾いた布などで拭いてください。

● 電池の残量について

電池の特性上、残量のなくなった電池をカメラに入れると、電池の残量が充分にある状態を示す（電池残量表示が表示されない）ことがありますので、ご注意ください。

● ニッケル水素充電池について

- ニッケル水素充電池は、残量がある状態で繰り返し充電すると、メモリー効果（一時的に電池容量が低下したような特性を示す現象）によって、電池残量表示が早めに表示されることがあります。最後まで使い切ってから充電すると、正常に戻ります。
- ニッケル水素充電池は、お使いにならないときでも自然放電によって残量が減っていきます。お使いになる直前に充電することをおすすめします。

● リチャージャブルバッテリー EN-MH1の充電について

EN-MH1は、専用バッテリーチャージャー MH-71で2本同時に充電してください。2組以上のEN-MH1をお使いの場合は、残量の異なるバッテリーが混在しないようにしてください。

● リチャージャブルバッテリー EN-MH1のリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは、再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力ください。端子部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	参照
（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	106
	電池の残量が少なくなりました。	電池を交換する準備をしてください。	12
電池残量がありません	電池の残量がありません。	電池を交換してください。	12
記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消灯するまでお待ちください。	23
カードがロックされています	SD カードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	17
このカードは使用できません カードに異常があります	SD カードへのアクセス異常です。	• 動作確認済みのカードを使ってください。 • カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 • カードが正しく挿入されているか確認してください。	119 16 16
このカードは初期化されていません。 初期化しますか？ いいえ はい	SDカードが、COOLPIX P50用に初期化されていません。	［はい］を選んでⓀボタンを押し、SDカードを初期化してください。	17
メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	• 画質または画像サイズを変更してください。 • 不要な画像や音声データを削除してください。 • SDカードを交換してください。 • SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	81、82 24、61、64、101 16 17

付録

表示	意味	対処法	📖
ⓘ 画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	113
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	• SDカードを交換してください。 • 内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	16 113
	オープニング画面に登録できない画像です。	トリミングやスモールピクチャーで作成した画像で、画像サイズが160×120のもの、および［画像サイズ］を［3:2 3264×2176］または［16:9 3200×1800］にして撮影した画像は、登録できません。	51、52、82
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	101
ⓘ 音声を登録できません	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	• SDカードを交換してください。 • 内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	16 113
ⓘ この画像は編集できません	編集できない画像を編集しようとしました。	D-ライティング、電子式手ブレ補正、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームが可能な条件を確認してください。	47
ⓘ 動画記録できません	SDカードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	119
ⓘ 撮影画像がありません	• 撮影済みの画像または録音済みの音声データがありません。	–	–
ⓘ 音声データがありません	• SDカードに画像または音声データが入っていません。	内蔵メモリーからSDカードにコピーする場合は、MENUボタンを押してください。[画像コピー]または[音声データコピー]画面が表示されます。	102、65

付録

表示	意味	対処法	📖
このファイルは表示できません	COOLPIX P50以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。	–
このデータは再生できません			
このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	101
自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	108
モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	8
レンズエラー	レンズの作動不良です。	電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	18
通信エラー	パソコンやプリンターとの通信中に、USBケーブルが外れました。	パソコンに警告メッセージが表示されたときは、［OK］をクリックしてNikon Transferを終了してください。カメラの電源をOFFにしてケーブルを再接続してから、もう一度転送してください。	68、72
システムエラー	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにして電池を入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	12、18

表示	意味	対処法	🔍
ⓘ🖨 プリンターエラー プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［継続］を選んで🆗ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ🖨 プリンターエラー 用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［継続］を選んで🆗ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ🖨 プリンターエラー 紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［継続］を選んで🆗ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ🖨 プリンターエラー 用紙がありません	用紙がセットされていません	指定したサイズの用紙をセットした後、［継続］を選んで🆗ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ🖨 プリンターエラー インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［継続］を選んで🆗ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ🖨 プリンターエラー インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［継続］を選んで🆗ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
ⓘ🖨 プリンターエラー ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［キャンセル］を選んで🆗ボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※ プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターに何も映らない	• 電源が入っていません。 • 電池残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。シャッターボタンを半押ししてください。 • 液晶モニターが消灯しています。▢（モニター）ボタンを押して液晶モニターを点灯してください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。充電が完了するまでお待ちください。 • カメラとパソコンがUSBケーブルで接続されています。 • カメラとテレビがAVケーブルで接続されています。 • 微速度撮影中またはインターバル撮影中です。	18 18 13、22 11 27 67 66
液晶モニターがよく見えない	• 周囲の光が明るすぎます。暗い場所に移動するか、ファインダーをお使いください。 • 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。 • 節電機能により液晶モニターが暗くなっています。	20 109 122 13
カメラの電源が突然切れる	• 電池残量がありません。 • 操作しない状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • 低温下ではカメラや電池が正常に動作しないことがあります。	18 13 124
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に時計マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00　00:00」、動画の撮影日時や音声レコードの録音日時が「2007/09/01 00:00」と記録されます。［セットアップ］メニューの［日時設定］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	14 106
撮影情報や画像情報が表示されない	撮影情報、画像情報を非表示にしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで、▢（モニター）ボタンを押してください。	11

こんなときは	考えられる原因や対処法	
［デート写し込み］が選べない	セットアップメニュー［日時設定］が設定されていません。	14、106
［デート写し込み］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	以下の場合は日付が写し込まれません。 • シーンモードが［スポーツ］、［ミュージアム］または［パノラマアシスト］になっているとき • 撮影メニューの［連写］が［連写］または［BSS］のとき • セットアップメニューの［電子式手ブレ補正］が［AUTO］になっているとき • 動画	34、36、38 90 111 56
設定内容が初期状態に戻ってしまった	バックアップ電池が切れたため、設定がリセットされました。	107

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにして電池を入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ ボタンまたはシャッターボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。 • 電池残量がありません。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	24 10 18 27
ピントが合わない	• オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［AF補助光］を［AUTO］にしてください。 • シャッターボタンを半押ししたときに、被写体がAF エリア内に入っていません。 • 電源を入れ直してください。	23 111 22、93 18

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • 高感度モードで撮影してください。 • 電子式手ブレ補正機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	26 40 58、111 90 28
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	26
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • フォーカスモードが▲（遠景 AF）になっています。 • 🎥モード（［微速度撮影］を除く）になっています。 • 撮影メニュー［連写］が［連写］、［BSS］または［マルチ連写］になっています。	26 31 29 56 90
光学ズームが使えない	動画撮影中は使えません。	56
電子ズームが使えない	以下の場合、電子ズームは使えません。 • 🌅モード、🌃モードのとき • 動画の撮影開始前 • 撮影メニュー［連写］が［マルチ連写］のとき • セットアップメニュー［電子ズーム］が［OFF］のとき	32 56 90 112
［画像サイズ］が選べない	• 撮影メニュー［連写］が［マルチ連写］のときは、設定できません。	90
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［操作音］の［シャッター音］が［OFF］になっています。 • 撮影メニュー［連写］が［連写］、［BSS］または［マルチ連写］になっています。 • シーンモードが［スポーツ］または［ミュージアム］になっています。 • 🎥モードになっています。	112 90 34、36 56
AF補助光が発光しない	• セットアップメニュー［AF 補助光］が［OFF］になっています。 • 一部のシーンモードでは発光しません。	111 33～38

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	122
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスが選ばれていません。	86
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低い ISO 感度にしてください。 • 撮影メニュー［ノイズ低減］を［自動 ON］にしてください。 • ノイズ低減機能付きのシーンモードで撮影してください。	26 88 96 34
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • 高感度モードにするか、ISO感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。シーンモードの［逆光］にするか、フラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。	26 20 26 30 40、88 26、37
画像が明るすぎる	露出を補正してください。	30
赤目以外の部分が補正された	⚡◎（赤目軽減自動発光）や🌃モードの赤目軽減スローシンクロ強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。🌃モード以外の撮影モードで、フラッシュモードを［赤目軽減自動発光］以外にして撮影してください。	26、34

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダ名が変更されました。 • 微速度撮影中またはインターバル撮影中です。	–
画像の拡大表示ができない	動画やスモールピクチャー、320×240以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。	–

こんなときは	考えられる原因や対処法	参照ページ
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • このカメラ以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラでは再生できません。	61 54
D-ライティング、電子式手ブレ補正、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームができない	• 動画は編集できません。 • ［画像サイズ］を［3264 × 2176］、［3200 × 1800］にして撮影した画像は D-ライティング、トリミング、スモールピクチャーができません。 • D-ライティング、電子式手ブレ補正、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームが可能な条件を確認してください。 • このカメラ以外で撮影した画像は編集できません。 • 他のデジタルカメラでは、編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。	61 82 47 47 47
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［ビデオ出力］が正しく設定されていません。 • 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときは SD カードを取り出してください。	114 16
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transferが自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • 電池残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • Nikon Transfer が自動起動しない設定になっています。 • パソコンの OS が Windows 2000 Professional の場合は、カメラを接続できません。 Nikon Transferについては、Nikon Transferのヘルプをご参照ください。	18 18 68 — — 69
プリントする画像が表示されない	画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像をプリントするときはSDカードを取り出してください。	16
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」を行うことができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	73、74

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P50

型式		コンパクトデジタルカメラ
有効画素数		8.1 メガピクセル
撮像素子		1/2.5型原色CCD、総画素数8.29 メガピクセル
レンズ		光学3.6倍 ズームニッコールレンズ
	焦点距離	4.7–17.0 mm（35mm判換算28–102mm相当の撮影画角）
	絞り	F2.8–5.6
	レンズ構成	6群7枚
電子ズーム		最大4倍（35mm判換算で約408mm相当の撮影画角）
手ブレ補正		電子式
オートフォーカス		コントラスト検出方式、マルチエリアAF可能
	撮影距離	・レンズ前約 50 cm ～∞ ・マクロ AF 時は約 5 cm（ズームの広角側）～∞
	AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央、マニュアル（99点）
	AF補助光	クラス1 LED製品（IEC 60825-1 Edition 1.2-2001） 最大出力値1500 µW
ファインダー		実像式光学ズームファインダー、LED表示
	視野率	上下左右とも約75 %（対実画面）
液晶モニター		2.4型TFT液晶、115,000ドット 輝度調節機能付き（5段階）
	視野率（撮影時）	上下左右とも約97 %（対実画面）
	視野率（再生時）	上下左右とも約100 %（対実画面）
記録形式		
	記録媒体	内蔵メモリー（約52 MB）、SDメモリーカード
	画像ファイル	DCF、Exif2.2、DPOF準拠
	ファイル形式	圧縮：JPEG-Baseline準拠 FINE（約1/4圧縮）、NORMAL（約1/8圧縮）、BASIC（約1/16圧縮） 動画：AVI 音声：WAV
画像サイズ（記録画素数）		・3264 × 2448 ［8 M］ ・2592 × 1944 ［5 M］ ・2048 × 1536 ［3 M］ ・1600 × 1200 ［2 M］ ・1280 × 960 ［1 M］ ・1024 × 768 ［PC］ ・640 × 480 ［TV］ ・3264 × 2176 ［3:2］ ・3200 × 1800 ［16:9］
ISO感度（標準出力感度）		ISO 64、100、200、400、800、1600、2000、オート（ISO 64～1000）

項目	細目	仕様
露出		
	測光方式	マルチパターン測光（256分割）、中央部重点測光、スポット測光、AFスポット測光（99点AF対応）
	露出制御	プログラムオート、マニュアル露出、露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能
	露出連動範囲（ISO 100）	広角側：–0.3～+15.6 EV 望遠側：+1.7～+17.6 EV
シャッター		メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
	シャッタースピード	1/1000～8秒
絞り		電磁駆動によるNDフィルター選択方式
	制御段数	2（F2.8、F5.6［広角側］）
セルフタイマー		約10秒、約3秒
内蔵フラッシュ		
	調光範囲（ISO感度設定オート時）	約0.5～5.9 m（広角側） 約0.5～2.8 m（望遠側）
	調光方式	自動調光制御
インターフェース		USB
	通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力		NTSC、PALから選択可能
入出力端子		オーディオビデオ（AV）出力/デジタル端子（USB） イメージリンク端子
言語		日本語、英語の2言語
電源		• アルカリ単3形電池（付属）、オキシライド単3形乾電池、リチウム単3形電池のいずれかを各2本 • Ni-MH リチャージャブルバッテリー EN-MH1（ニッケル水素充電池）× 2本 • AC アダプター EH-65A
撮影可能コマ数（電池寿命）※		約140コマ（アルカリ電池使用時）、約190コマ（オキシライド乾電池使用時）、約580コマ（リチウム電池使用時）、約330コマ（EN-MH1使用時）
寸法（幅×高さ×奥行き）		約94.5×66×44 mm（突起部除く）
質量		約160 g（電池、SDメモリーカード除く）
動作環境		
	使用温度	0～40 ℃
	使用湿度	85 %以下（結露しないこと）

• 仕様中のデータは、すべて常温（25 ℃）、アルカリ電池使用時のものです。

※ 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2) ℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［NORMAL］、画像サイズ［8M 3264×2448］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動することがあります。付属の電池はお試し用の電池です。

ドックインサート PV-16

寸法 （幅×高さ×奥行き）	約135.5×17×63 mm（突起部除く）
質量	約27 g

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.2：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの使用説明書をご参照ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。
- イメージリンク　プリントシステム：デジタルカメラとプリンターをコードレスで接続して写真をプリントするための規格です。
  デジタルカメラをプリンタードックにのせれば、簡単にプリントできます。

索引

英数・マーク

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

付録

マ

ヤ

ラ

ワ

付録

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社ホームページでご覧いただくことができます。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：	年　　月　　日
お買い上げ日：	年　　月　　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　　□会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量： OS のバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	 ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00（年末年始、夏期休業等を除く毎日）
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、（03）5977-7033 におかけください。
FAXでのご相談は、（03）5977-7499 におかけください。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理の申し込みができます。
「修理見積もり」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/service/repair/index.htm

＜インターネットをご利用できない方の修理品送り先＞

ニコンカメラ販売（株）修理センター　〒230-0052　横浜市鶴見区生麦2−2−26　電話：（045）500−3050

営業時間：9:30～17:30（土、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業など弊社定休日を除く毎日）

● 修理センターではご来所の方の窓口がございません。送付のみの対応となりますのでご了承ください。

株式会社ニコン・ニコンカメラ販売株式会社

Printed in Japan
YP7H02(10)
6MMA1510-02